

第三 當事者ノ雙方ヨリ控訴ヲ起シタル場合ニ於ケル訴訟手續及ヒ控訴ト故障トヲ同時ニ爲シタルトキノ訴訟手續

第四 口頭辯論ノ延期

第五 口頭辯論ノ際ニ於ケル當事者ノ演述

第六 妨訴ノ抗辯ニ付テノ辯論

第七 控訴ヲ起シタル者ノ不利益ト爲ル裁判ヲ爲ス可カラサルキト

第八 記録ノ送付並ニ返還

第三章 抗告

第四百五十五條 抗告ハ訴訟手續ニ關スル申請ヲ口頭辯論ヲ經スシテ却下シタル裁判ニ對シ其他此法律ニ於テ特ニ掲ケタル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第四百五十六條 抗告ニ付テハ直近ノ上級裁判所其裁判ヲ爲ス

抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ其裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルトキニ非サレハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第四百五十七條 抗告ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判

長ノ屬スル裁判所ニ抗告狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス

訴訟カ區裁判所ニ繫屬シ若クハ嘗テ繫屬シタルトキ又ハ證人、鑑定人ヨリ若クハ證書ヲ提出スル義務アリト宣言ヲ受ケタル第三者ヨリ抗告ヲ爲ストキハ

口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四百五十八條 抗告ハ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ以テ憑據ト爲スコトヲ得

第四百五十九條 不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長カ再度ノ考案若クハ新ナル提供ニ基キ抗告ヲ理由アリトスルトキハ不服ノ點ヲ更正シ又理由ナシトスルトキハ裁判所又ハ裁判長ハ意見ヲ付シテ三日ノ期間内ニ抗告ヲ抗告裁判所ニ送付シ又適當トスル場合ニ於テハ訴訟記録ヲモ送付ス可シ

第四百六十條 抗告ハ此法律ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ニ限り執行停止ノ效力ヲ有ス

民事訴訟法 上訴 抗告

然レトモ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ハ抗告ニ付テノ裁判アルマテ其執行ノ中止ヲ命スルコトヲ得

抗告裁判所ハ抗告ニ付テノ裁判ヲ爲ス前ニ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ執行中止ヲ命スルコトヲ得

第四百六十一條 抗告ハ急迫ナル場合ニ限り直チニ抗告裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

抗告裁判所ハ裁判ヲ爲ス前ニ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ノ意見及ヒ記録ヲ要求スルコトヲ得

抗告裁判所ハ事件ヲ急迫ナラスト認ムルトキハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ニ其事件ヲ送付シ且其旨ヲ抗告人ニ通知ス可シ

第四百六十二條 抗告裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スヲ以テ通例トス

抗告裁判所ハ抗告人ト反對ノ利害關係ヲ有スル者ニ抗告ヲ通知シテ書面上ノ

陳述ヲ爲サシムルコトヲ得

陳述ハ口頭ヲ以テ抗告ヲ爲シ得ヘキ場合ニ於テハ亦口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

抗告裁判所ハ口頭辯論ノ爲ニ當事者ヲ呼出スコトヲ得

第四百六十三條 抗告裁判所ハ抗告ヲ許ス可キヤ否ヤ又法律上ノ方式ニ從ヒ若クハ其期間ニ於テ提出シタルヤ否ヤヲ職權ヲ以テ調査ス可シ

若シ此要件ノ一ヲ缺クトキハ抗告ヲ不合法トシテ棄却ス可シ

第四百六十四條 抗告ヲ適法ニシテ且理由アリトスルトキハ抗告裁判所ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ廢棄シテ自ラ更ニ裁判ヲ爲シ又ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ニ委任シテ裁判ヲ爲サシムルコトヲ得

抗告裁判所ノ裁判ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ニ之ヲ通知ス可シ

第四百六十五條 受命判事者クハ受託判事ノ裁判又ハ裁判所書記ノ處分ノ變更ヲ求ムルニハ先ツ受訴裁判所ノ裁判ヲ求ム可シ

抗告ハ受訴裁判所ノ裁判ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ規定ハ大審院ニモ亦之ヲ適用ス

第四百六十六條 即時抗告ノ場合ニ於テハ左ノ特別ノ規定ニ從フ

抗告ハ七日ノ不變期間内ニ之ヲ爲スコシ其期間ハ裁判ノ送達ヨリ始マリ第二百五十三條、第六百八十條及ヒ第七百六十九條第三項ノ場合ニ於テハ裁判ノ言渡ヨリ始マル抗告裁判所ニ抗告ヲ提出シタルトキハ急迫ナラスト認メタル場合ニ於テモ亦不變期間ヲ保存ス  
再審ヲ求ムル訴ニ付テノ要件存スルトキハ不變期間ノ滿了後ト雖モ此訴ノ爲メ定メタル期間内ハ抗告ヲ爲スコトヲ得

前條第一項ノ場合ニ於テハ抗告提出ノ爲メ定メタル方法ニ依リ不變期間内ニ受訴裁判所ノ裁判ヲ求ムルコトヲ要ス受訴裁判所ハ其申請ヲ正當ト認メサル

トキハ之ヲ抗告裁判所ニ送付ス可シ

第四編 再審

第四百六十七條 確定ノ終局判決ヲ以テ終結シタル訴訟ハ取消ノ訴又ハ原狀回復ノ訴ニ因リ之ヲ再審スルコトヲ得

當事者ノ一方又ハ雙方ヨリ此兩訴ヲ起シタルトキハ原狀回復ノ訴ニ付テノ辯論及ヒ裁判ハ取消ノ訴ニ付テノ裁判ヲ確定スルマテ之ヲ中止ス可シ

第四百六十八條 左ノ場合ニ於テハ取消ノ訴ニ因リ再審ヲ求ムルコトヲ得

第一 規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セザリシトキ

第二 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事ヲ裁判ニ參與シタルトキ但忌避ノ申請又ハ上訴ヲ以テ除斥ノ理由ヲ主張シタルモ其效ナカリシトキハ此限ニ在ラス

第三 判事ヲ忌避セラレ且忌避ノ申請カ理由アリト認メラレタルニ拘ハラズ裁判ニ參與シタルトキ

第四 訴訟手續ニ於テ原告若クハ被告カ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレザリシトキ

第一號及ヒ第三號ノ場合ニ於テ上訴若クハ故障ヲ以テ取消ヲ主張シ得ヘカヤシトキハ取消ノ訴ヲ許サス

第四百六十九條 左ノ場合ニ於テハ原狀回復ノ訴ニ因リ再審ヲ求ムルコトヲ得

第一 刑法ニ掲ケタル職務上ノ義務ニ違背シタル罪ヲ訴訟ニ關シ犯シタル判事カ裁判ニ參與シタリシトキ

第二 原告若クハ被告ノ法律上代理人若クハ訴訟代理人又ハ相手方若クハ其法律上代理人若クハ訴訟代理人カ罰セラル可キ行爲ヲ訴訟ニ關シテ爲シタリシトキ

第三 判決ノ憑據ト爲リタル證書カ偽造又ハ變造ナリシトキ

第四 證人若クハ鑑定人カ供述ニ因リ又ハ通事カ判決ノ憑據ト爲リタル通譯ニ因リ偽證ノ罪ヲ犯シタリシトキ

第五 判決ノ憑據ト爲リタル刑事上ノ判決カ他ノ確定ト爲リタル刑事上ノ

判決ヲ以テ廢棄若クハ破毀セラレザルコトキ

第六 原告若クハ被告カ同一ノ事件ニ付テノ判決ニシテ前ニ確定ト爲ルモノ

ナルモノヲ發見シ其判決カ不服ヲ申立テラレザル判決ト牴觸スルトキ

第七 相手方若クハ第三者ノ所爲ニ依リ以前ニ提出スルコトヲ得サリシ證

書ニシテ原告若クハ被告ノ利益ト爲ル可キ裁判ヲ爲スニ至ラシム可キモノ

ヲ發見シタルトキ

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テハ罰セラル可キ行爲ニ付テ判決カ確定ト爲リタルトキ又ハ證據欠缺外ナル理由ヲ以テ刑事訴訟手續ノ開始若クハ實行ヲ爲シ得サルトキニ限リ再審ヲ求ムルコトヲ得

第四百七十條 原狀回復ノ訴ハ原告若クハ被告カ自己ノ過失ニ非スシテ前訴訟手續ニ於テ殊ニ故障又ハ控訴若クハ附帶控訴ニ依リ原狀回復ノ理由ヲ主張スルコト能ハサリシトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法 再審

第四百七十一條 不服ヲ申立テラレタル判決前ニ同一ノ裁判所又ハ下級ノ裁判所ニ於テ爲シタル裁判ニ關スル不服ノ理由ヲ再審ヲ求ムル訴ト共ニ之ヲ主張スルコトヲ得但不服ヲ申立テラレタル判決ガ其裁判ニ根據スルトキニ限ル

第四百七十二條 再審ヲ求ムル訴ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所ノ管轄ニ專屬ス

同一ノ事件ニ付キ一分ハ下級ノ裁判所又ハ一分ハ上級ノ裁判所ニ於テ爲シタル數箇ノ判決ニ對スル訴ハ上級ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス

督促手續ニ依リテ區裁判所ノ發シタル執行命令ニ對シ再審ヲ求ムル訴ハ其命令ヲ發シタル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス然レトモ其請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ請求ニ付テノ訴訟ヲ管轄スル裁判所ニ專屬ス

第四百七十三條 訴ノ提起及ヒ其後ノ訴訟手續ニハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケサル限りハ其訴ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス可キ裁判所ノ訴訟手續ニ關スル規定ヲ適用ス

第四百七十四條 訴ハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ

此期間ハ原告若クハ被告カ不服ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始メル若シ原告若クハ被告カ判決ノ確定前ニ不服ノ理由ヲ知リタルトキハ判決ノ確定ヲ以テ始マル

判決確定ノ日ヨリ起算シテ五年ノ滿了後ハ訴ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ第四百六十八條第四號ノ場合ニ之ヲ適用セス此場合ニ於テ其訴ノ提起ノ期間ハ原告若クハ被告又ハ其法律上代理人カ送達ニ因リ判決アリタルヨリ知リタル日ヲ以テ始マル

第四百七十五條 訴狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 取消又ハ原狀回復ノ訴ヲ受クル判決ノ表示

第二 取消又ハ原狀回復ノ訴ヲ起ス旨ノ陳述

此他訴狀ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作リ且不服ノ理由ノ表示、此理由及ヒ不變期間ノ遵守ヲ明白ナラシムル事實ニ付テハ證據方法又如

何ナル程度ニ於テ不服ヲ申立テラレタル判決ヲ廢棄若クハ破毀ス可キモノ申立又本案ニ付キ更ニ如何ナル裁判ヲ爲ス可キモノ申立テモ掲ク可シ  
第四百七十六條 判然許ス可カラサル訴又ハ判然法律上ノ方式ニ適セス若クハ其期間ノ經過後ニ起シタル訴ハ裁判長ノ命令ヲ以テ之ヲ却下ス可シ

此却下ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百七十七條 原告ハ口頭辯論ノ期日ニ於テ相手方ノ陳述ノ有無ニ拘ハラズ再審ヲ求ムル理由及ヒ法律上ノ期間ノ遵守ヲ明白ニスル事實ヲ疏明ス可シ

第四百七十八條 許ス可カラサル訴又ハ法律上ノ方式ニ適セス若クハ其期間ノ經過後ニ起シタル訴ハ職權ヲ以テ判決ニ因リ不適法トシテ之ヲ棄却ス可シ

第四百七十九條 本案ニ付テノ辯論及ヒ裁判ハ不服申立ノ理由ノ存スル部分ニ限り更ニ之ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ本案ニ付テノ辯論前ニ再審ヲ求ムル理由及ヒ許否ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ本案ニ付テノ辯論ハ再審ヲ求ムル理由及ヒ

許否ニ付テノ辯論ノ續行ト看做ス

第四百八十條 原告ノ不利益ト爲ル判決ノ變更ハ相手方カ再審ヲ求ムル訴ヲ起シテ變更ヲ申立テタルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百八十一條 訴カ上告裁判所ニ屬スルトキハ上告裁判所ハ再審ヲ求ムル理由及ヒ其許否ニ付テノ辯論ノ完結カ係争事實ノ確定及ヒ斟酌ニ繫ルトキト雖モ其完結ヲ爲スコトヲ得

第四百八十二條 上訴ハ訴ニ付キ裁判ヲ爲シタル裁判所ノ判決ニ對シ一般ニ爲スコトヲ得ヘキトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第四百八十三條 第三者カ原告及ヒ被告ノ共謀ニ因リ第三者ノ債權ヲ詐害スル目的ヲ以テ判決ヲ爲サシメタリト主張シ其判決ニ對シ不服ヲ申立ツルトキハ原狀回復ノ訴ニ因レル再審ノ規定ヲ準用ス  
此場合ニ於テハ原告及ヒ被告ヲ共同被告ト爲ス

第五編 證書訴訟及ヒ爲替訴訟

民事訴訟法 證書訴訟及ヒ爲替訴訟

第四百八十四條 一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ハ其請求ヲ起ス理由タル總テノ必要ナル事實ヲ證書ニ依リ證スルコトヲ得ヘキトキハ證書訴訟ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得

第四百八十五條 訴狀ニハ證書訴訟トシテ訴フル旨ノ陳述ヲ掲ゲ且證書ノ原本又ハ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第四百八十六條 本案ノ辯論ハ妨訴ノ抗辯ニ基キ之ヲ拒ムコトヲ得ス然レトモ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ此抗辯ニ付キ辯論ノ分離ヲ命スルコトヲ得

第四百八十七條 反訴ハ之ヲ爲スコトヲ得ス  
證書ノ眞否及ヒ第四百八十四條ニ掲ケタル以外ノ事實ニ關シテハ書證ノミヲ以テ適法ノ證據方法ト爲スコトヲ得

第四百八十八條 原告ハ口頭辯論ノ終結ニ至ルマテハ被告ノ承諾ヲ要セスシテ

通常ノ手續ニテ訴訟ヲ繫屬セシメテ證書訴訟ヲ止ムルコトヲ得

第四百八十九條 訴ヲ以テ主張シタル請求カ理由ナシト見ユ又ハ被告ノ抗辯ニ因リ理由ナシト見ユルトキハ原告ノ請求ヲ却下ス可シ

證書訴訟ヲ許ス可カラサルトキ殊ニ適法ノ證據方法ヲ以テ原告ノ義務タル證據ヲ申出テス又ハ完全ニ之ヲ舉ゲサル場合ニ於テハ被告カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ法律上ノ理由ナキ異議若クハ證書訴訟ニ於テ許ササル異議ノミヲ以テ訴ニ對シ抗辯シタルトキト雖モ此訴訟ニ於テハ其訴ヲ許ササルモノトシテ之ヲ却下ス可シ

第四百九十條 證書訴訟ニ於テ適法ノ證據方法ヲ以テ被告ノ義務タル證據ヲ申出テス又ハ完全ニ之ヲ舉ゲサルトキハ被告ノ異議ハ證書訴訟ニ於テ許ササルモノトシテ之ヲ却下ス可シ

第四百九十一條 主張シタル請求ヲ争ヒタル被告ニハ敗訴ノ言渡ヲ受ケタル總ノ場合ニ於テ其權利ノ行使ヲ留保ス可シ

判決ニ此留保ヲ掲ケサルトキハ第二百四十二條ノ規定ニ依リ判決ノ補充ヲ申立ツルコトヲ得

留保ヲ掲ケタル判決ハ上訴及ヒ強制執行ニ付テハ之ヲ終局判決ト看做ス

第四百九十二條 被告ニ權利ノ行使ヲ留保シタルトキハ訴訟ハ通常ノ訴訟手續ニ於テ繫屬ス

此手續ニ於テ證書訴訟ヲ以テ主張シタル請求ノ理由ナカリシコトノ顯ハルルトキハ前判決ヲ廢棄シ原告ノ請求ヲ却下シ且其生セシメタル費用ノ全部又ハ一分ノ辨濟ヲ原告ニ言渡シ又前判決ニ基キ被告ヨリ支拂ヒ又ハ給付シタルモノノ辨濟ヲ申立ニ因リ原告ニ言渡ス可シ  
右手續ニ於テ原告若クハ被告カ出頭セサルトキハ闕席判決ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百九十三條 第四百二十六條及ヒ第四百二十七條ノ規定ハ證書訴訟ニ之ヲ適用セス

第四百九十四條 商法ニ規定シタル手形ニ因ル請求ヲ證書訴訟ヲ以テ主張スルトキハ爲替訴訟トシテ以下二條ニ掲ケル特別ノ規定ヲ適用ス

第四百九十五條 爲替ノ訴ハ支拂地ノ裁判所又ハ被告カ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得  
數人ノ爲替義務者カ共同ニテ訴ヲ受ク可キトキハ支拂地ノ裁判所又ハ被告ノ各人カ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所各之ヲ管轄ス

第四百九十六條 訴狀ニハ爲替訴訟トシテ訴フル旨ヲ掲ケルコトヲ要ス  
訴ノ許ス可キモノナルトキハ直チニ口頭辯論ノ期日ヲ定ム  
口頭辯論ノ期日ト訴狀送達トノ間ニハ少ナクトモ二十四時ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第六編 強制執行

第一章 總則

第四百九十七條 強制執行ハ確定ノ終局判決又ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル終局民事訴訟法 強制執行 總則 百六十九



判決ニ因リテ之ヲ爲ス

第四百九十八條 判決ハ適法ナル故障ノ申立又ハ適法ナル上訴ノ提起ニ付キ定メタル期間ノ滿了前ニハ確定セサルモノトス

判決ノ確定ハ故障若クハ上訴ヲ其期間内ニ申立若クハ提起スルニ因リ之ヲ遮斷ス

第四百九十九條 原告若クハ被告カ判決ノ確定ニ付キ證明書ヲ求ムルトキハ第一審裁判所ノ書記ハ記録ニ基キ之ヲ付與ス

訴訟カ猶ホ上級審ニ於テ繫屬中ナルトキハ上級裁判所ノ書記ハ判決ノ確定ト爲リタル部分ノミニ付キ證明書ヲ付與ス

判決ニ對シ上訴ノ提起ナキ場合ニ非サレハ證明書ヲ付與スルコトヲ得サルトキニ限リ上訴ヲ管轄スル裁判所ノ書記カ不變期間内ニ上訴ノ提起ナキコトヲ認めタル證明書ヲ以テ足ル

第五百條 原狀回復又ハ再審ヲ求ムル申立アルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ保證

ヲ立テシメ又ハ保證ヲ立テシメシテ強制執行ヲ一時停止ス可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ爲ス可キコトヲ命シ及ヒ保證ヲ立テシメテ其爲シタル強制處分ヲ取消ス可キヲ命ズルコトヲ得  
保證ヲ立テシメシテ爲ス強制執行ノ停止ハ其執行ニ因リ償フコト能ハサル損害ヲ生ス可キコトヲ疎明スルトキニ限り之ヲ許ス  
右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得其裁判ニ對シテハ不服ヲ申立  
ツルコトヲ得ス

第五百一條 左ノ判決ニ付テハ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一 認諾ニ基キ敗訴ヲ言渡ス判決

第二 證書訴訟又ハ爲替訴訟ニ於テ言渡ス判決

第三 同一審ニ於テ同一ノ原告若クハ被告ニ對シ本案ニ付キ言渡シタル第

二又ハ其後ノ闕席判決

第四 假差押又ハ假處分ヲ取消ス判決

民事訴訟法 強制執行 總則

第五 養料ヲ支拂フ義務ヲ言渡ス判決但訴ノ提起後ノ時間及ヒ其提起前最  
後ノ三ヶ月間ノ爲ニ支拂フ可キモノナルトキニ限ル

第五百二條 左ノ場合ニ於テハ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一 總テノ住家其他ノ建物又ハ其或ル部分ノ受取、明渡、使用、占據若  
クハ修繕ニ關シ又ハ賃借人ノ家具若クハ所持品ヲ賃貸人ノ差押ヘタルコ  
トニ關シ賃貸人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

第二 占有ノミニ係ル訴訟

第三 雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一ヶ年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟

第四 左ニ掲ケタル事項ニ付キ旅人ト旅店若クハ飲食店ノ主人トノ間ニ又  
ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟

イ 賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料

ロ 旅店若クハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲メ預ケタル  
手荷物、金錢又ハ有價物

第五 此他財産權上ノ請求ニ關シ金額又ハ價額ニ於テ貳拾圓ヲ超過セサル  
訴訟但其物ノ價額ニ付テハ第三條乃至第六條ノ規定ヲ適用ス

第五百三條 前二條ニ掲ケタル外左ノ場合ニ於テハ財産權上ノ請求ニ關スル判  
決ニ限リ債權者ノ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一 債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立テテ申出ツルトキ  
第二 債權者カ判決ノ確定ト爲ルマテ執行ヲ中止セハ償ヒ難キ損害又ハ計  
リ難キ損害ヲ受ク可キコトヲ説明スルトキ

第五百四條 債務者カ判決ノ確定ト爲ル前ニ判決ヲ執行セハ回復スルコトヲ得  
サル損害ヲ受ク可キコトヲ説明シタルトキハ其申立ニ因リ左ノ宣言ヲ爲ス可  
シ

第一 第五百二條ノ場合ニ於テハ判決ヲ假ニ執行ス可カラサルコトヲ  
第二 第五百二條及ヒ第五百三條ノ場合ニ於テハ債權者ノ假執行ノ申立ヲ  
却下スルコト

第五百五條 總テノ場合ニ於テ裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ債權者豫メ保證ヲ立ツルトキハ假執行ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ宣言スルコトヲ得  
債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立ツルコトヲ申出テ訴ルトキハ債務者ノ申立ニ因リ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カルルコトヲ許ス可シ

第五百六條 假執行ニ關スル申立ハ判決ニ接著スル口頭辯論以終結前ニ之ヲ爲ス可シ

第五百七條 假執行ニ付テシ裁判ハ判決主文ニ之ヲ掲ケ可シ  
第五百八條 職權ヲ以テ判決ノ假執行ヲ宣言ス可キ場合ニ於テ假執行ニ付テノ裁判ヲ爲ササルトキ又ハ判決ノ假執行ヲ宣言ス可キ債權者ノ申立ヲ看過シタルトキハ第二百四十二條及ヒ第二百四十三條ノ規定ニ從ヒ判決ノ補充ヲ爲ス可キ得

第五百九條 第一審又ハ第二審ノ判決ニシテ假執行ノ宣言ナカリシモノ又ハ條

件附ノ假執行ノ宣言アリタルモノハ上訴ヲ以テ不服ヲ申立テサル部分ニ限り口頭辯論ノ進行中ニ爲シタル原告若クハ被告ノ申立ニ因リ上級審ニ於テ其判決ニ假執行ヲ宣言ヲ付ス可シ

第五百十條 本案ノ裁判又ハ假執行ノ宣言ヲ廢棄若クハ破毀又ハ變更スル判決ノ言渡アルトキハ假執行ハ其廢棄若クハ破毀又ハ變更ヲ爲ス限度ニ於テ效力ヲ失フ

假執行ノ宣言アリタル本案ノ判決ヲ廢棄若クハ破毀又ハ變更スルトキハ判決ニ基キ被告ノ支拂又ハ給付シタルモノノ辨濟ヲ被告ノ申立ニ因リ判決ヲ以テ原告ニ言渡ス可シ

第五百十一條 第二審ニ於テ申立ニ因リ先ツ假執行ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス可シ

口頭辯論ノ延期ニ付テシ第四百十條ノ規定ハ此場合ニ於テハ之ヲ適用セス  
第二審ニ於テ假執行ニ付キ爲シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第五百十二條 假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ニ對シ故障ヲ申立又ハ上訴ヲ起シタルトキハ第五百條ノ規定ヲ準用ス

第五百十三條 本編ニ規定ニ從ヒ原告若クハ被告ニ保證ヲ立ツル義務ヲ負ハシメ若クハ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ許シタル場合ニ於テハ原告若クハ被告ハ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ執行裁判所ニ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ得

保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタルコトニ付テハ求ニ因リ證明書ヲ付與ス可シ  
第五百十四條 外國裁判所ノ判決ニ因リ強行執行ハ本邦ノ裁判所ニ於テ執行裁判所ニ於テ其適法ナルコトヲ言渡シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得  
執行判決ヲ求ムル訴ニ付テハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ又普通裁判籍ヲキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル裁判所之ヲ管轄ス

第五百十五條 執行判決ハ裁判ノ當否ヲ調査セスシテ之ヲ爲ス可シ

執行判決ヲ求ムル訴ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ却下ス可シ

第一 外國裁判所ノ判決ノ確定ト爲リタルコトヲ證明セサルトキ

第二 本邦ノ法律ニ依リ強テ爲サシムルコトヲ得サル行爲ヲ執行セシム可キトキ

第三 本邦ノ法律ニ從ヘハ外國裁判所力管轄權ヲ有セサルトキ

第四 敗訴ノ債務者本邦人ニシテ應訴セサリシトキ但訴訟ヲ開始スル呼出

又ハ命令ヲ受訴裁判所所屬ノ國ニ於テ又ハ法律上ノ共助ニ依リ本邦ニ於

テ本人ニ送達セサリシトキニ限ル

第五 國際條約ニ於テ相互ヲ保セサルトキ

第五百十六條 強制執行ハ執行文ヲ付シタル判決ノ正本ニ基キ之ヲ爲ス

執行力アル正本ハ第一審裁判所ノ書記又訴訟カ上級裁判所ニ繫屬スルトキハ其裁判所ノ書記之ヲ付與ス

民事訴訟法 強制執行 總則

執行力アル正本ヲ求ムル申立ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五百十七條 執行文ハ判決ノ正本ノ末尾ニ之ヲ附記ス

其文式左ノ如シ

前記ノ正本ハ被告某若クハ原告某ニ對シ強制執行ノ爲メ原告某若クハ被告某ニ之ヲ付與ス

執行文ニハ裁判所書記署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ押ス可シ

第五百十八條 執行力アル正本ハ判決ヲ確定シタルトキ又ハ假執行ノ宣言アリ

タルトキニ限り之ヲ付與ス

判決ノ執行力其旨趣ニ從ヒ保證ヲ立ツルコトニ繋ル場合ノ外他ノ條件ニ繋ル

場合ニ於テハ債權者カ證明書ヲ以テ其條件ヲ履行シタルコトヲ證スルトキニ

限り執行力アル正本ヲ付與スルコトヲ得

第五百十九條 執行力アル正本ハ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲ニ之ヲ

付與シ又ハ判決ニ表示シタル債務者ノ一般ノ承繼人ニ對シ之ヲ付與スルコト

ヲ得但其承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキ又ハ證明書ヲ以テ之ヲ證スルトキニ限り

此承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキハ之ヲ執行文ニ記載ス可シ

第五百二十條 第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テハ執行力アル

正本ハ裁判長少命令アルトキニ限り之ヲ付與スルコトヲ得

裁判長ハ其命令前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得

右命令ハ執行文ニ之ヲ記載ス可シ

第五百二十一條 第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ニ依リ必要ナル證明ヲ

爲ス能ハサルトキハ債權者ハ判決ニ基キ執行文ノ付與ニ付キ第一審ノ受訴裁

判所ニ訴ヲ起スコトヲ得

第五百二十二條 執行文ノ付與ニ對シ債務者カ異議ヲ申立テタルトキハ其執行

文ヲ付與シタル裁判所書記ノ屬スル裁判所之ヲ裁判ス

裁判長ハ其裁判前ニ假處分ヲ爲スコトヲ得殊ニ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立

民事訴訟法 強制執行 總則

テシメスシテ強制執行ヲ一時停止シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行ス可キヲ命スルコトヲ得

第五百二十三條 債權者ハ執行力アル正本ノ數通ヲ求メ又ハ前ニ付與シタル正本ヲ返還セスシテ更ニ同一判決ノ正本ヲ求ムルトキハ裁判長ノ命令アルトキニ限り之ヲ付與スルコトヲ得

裁判長ハ其命令ノ前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得相手方ヲ審訊セスシテ執行力アル正本ノ數通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ相手方ニ通知ス可シ

正本ノ數通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ明記ス可シ

第五百二十四條 執行力アル正本ノ付與前ニ判決ノ原本ニ原告ノ爲メ若クハ被告ノ爲ニ之ヲ付與スル旨且之ヲ付與スル日時ヲ記載ス可シ

第五百二十五條 執行力アル正本ノ效力ハ之ヲ付與シタル裁判所ノ管轄内ニ止マラス總テ本邦ノ裁判區域内ニ及ブモノトス

第五百二十六條 債權者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ強制執行ヲ爲スモ完全ナル辨濟ヲ得ル能ハサルトキハ數通ノ執行力アル正本ニ基キ數箇ノ地又ハ數箇ノ方法ニテ同時ニ強制執行ヲ爲ス權利ヲ有ス

第五百二十七條 債權者ハ執行ヲ爲ス可キ地ヲ管轄スル區裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

第五百二十八條 強制執行ハ之ヲ求ムル者及ヒ之ヲ受クル者ノ氏名ヲ判決又ハ之ニ附記スル執行文ニ表示シ且判決ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限り之ヲ始ムルコトヲ得

判決ノ執行力其旨趣ニ從ヒ債權者ノ證明ス可キ事實ノ到來ニ繫ルトキ又ハ判決ノ執行力判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲ニ爲シ又ハ判決ニ表示シタル債務者ノ承繼人ニ對シ爲ス可キトキハ執行ス可キ判決ノ外尙ホ之ニ附記スル執行文ヲ強制執行ヲ始ムル前ニ送達スルコトヲ要ス

若シ證明書ニ依リ執行文ヲ付與シタルトキハ亦其證書ノ謄本ヲ強制執行ヲ始

ムル前ニ送達シ又ハ同時ニ送達スルコトヲ要ス

第五百二十九條 請求ノ主張カ或ル日時ノ到來ニ繫ルトキハ其日時ノ滿了後ニ

限リ強制執行ヲ始ムルコトヲ得

若シ執行カ債權者ヨリ保證ヲ立ツルコトニ繫ルトキハ債權者カ保證ヲ立テタ

ルコトニ付テノ公正ノ證明書ヲ提出シ且其謄本ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達

シタルトキニ限リ其執行ヲ始ムルコトヲ得

第五百三十條 豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シテ爲ス強制執行

ハ其上院司令官廳ニ通知ヲ爲シタル後ニ限リ之ヲ始ムルコトヲ得

此官廳ハ債權者ノ求ニ因リ通知ノ受取證ヲ付與ス可シ

第五百三十一條 強制執行ハ此法律ニ於テ別段ノ規定ナキトキニ限リ執達吏之

ヲ實施ス

債權者ハ強制執行ヲ委任スル爲ニ區裁判所書記ノ補助ヲ求ムルコトヲ得

裁判所書記ノ委任シタル執達吏ハ債權者ノ委任シタルモノト看做ス

第五百三十二條 執達吏ハ債權者ノ委任ニ因リテ爲ス行爲及ヒ職務上ノ義務ノ

違背ヨリシテ債權者其他ノ關係人ニ對シ損害ヲ生セシメタルトキハ第一ニ其

責ニ任ス

第五百三十三條 債權者執行力アル正本ヲ交付シテ強制執行ヲ委任シタルトキ

ハ執達吏ハ特別ノ委任ヲ受ケサルトキト雖モ支拂其他ノ給付ヲ受取リ其受取

リタルモノニ付キ有效ニ受取ノ證書ヲ作り之ヲ交付シ且債務者ニ於テ其義務

ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本ヲ債務者ニ交付スルコトヲ得

第五百三十四條 執達吏ハ執行力アル正本ヲ所持スルヲ以テ債務者及ヒ第三者

ニ對シ強制執行及ヒ前條ニ掲ケタル行爲ヲ實施スル權利ヲ有ス債權者ハ此等

ノ者ニ對シ委任ノ欠缺又ハ制限ヲ主張スルコトヲ得ス

執達吏ハ其正本ヲ携帶シ關係人ノ求アルトキハ其資格ヲ證スル爲ニ之ヲ示ス

可シ

第五百三十五條 執達吏ハ債務者カ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本及ヒ受取ノ證ヲ之ニ交付シ又其義務ノ一分ヲ盡シタルトキハ執行力アル正本ニ其旨ヲ附記シ且受取ノ證ヲ債務者ニ交付ス可シ

債務者カ後ニ債權者ニ對シ受取ノ證ヲ求ムル權利ハ前項ノ規定ニ因リテ妨ケラルルコト無シ

第五百三十六條 執達吏ハ執行ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ債務者ノ住居、倉庫及ヒ筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉及ヒ筐匣ヲ開カシムル權利ヲ有ス抵抗ヲ受クル場合ニ於テハ執達吏ハ威力ヲ用井且警察上ノ援助ヲ求ムルコトヲ得若シ兵力ヲ要スルトキハ之ヲ執行裁判所ニ申立ツ可シ

第五百三十七條 執達吏ハ執行行爲ヲ爲スニ際シ抵抗ヲ受クルトキ又ハ債務者ノ住居ニ於テ執行行爲ヲ爲スニ際シ債務者又ハ成長シタル其家族若クハ雇人ニ出會ハサルトキハ成丁者二人又ハ市町村若クハ警察ノ吏員一人ヲ證人トシテ立會ハシム可シ

第五百三十八條 強制執行ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル各人ニハ其求ニ因リ執達吏ノ記録ノ閲覽ヲ許シ及ヒ記録中ニ存スル書類ノ謄本ヲ付與スルコトヲ要ス

第五百三十九條 夜間及ヒ日曜日並ニ一般ノ祝祭日ニハ執行裁判所ノ許可アルトキニ限り執行行爲ヲ爲スコトヲ得

右許可ノ命令ハ強制執行ノ際之ヲ示ス可シ  
第五百四十條 執達吏ハ各執行行爲ニ付キ調書ヲ作ル可シ  
此調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 第一 調書ヲ作リタル場所、年月日
- 第二 執行行爲ノ目的物及ヒ其重要ナル事情ノ略記
- 第三 執行ニ與カリタル各人ノ表示
- 第四 右各人ノ署名捺印
- 第五 調書ヲ其各人ニ讀聞セ又ハ閲覽セシメ其承諾ノ後署名捺印ヲ爲シタ

民事訴訟法 強制執行 總則



ルコトノ開示

第六 執達吏ノ署名捺印

第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ具備スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ記載ス可シ

第五百四十一條 執行行爲ニ屬スル催告其他ノ通知ハ執達吏口頭ヲ以テ之ヲ爲シ且調書ニ之ヲ記載ス可シ

若シ口頭ヲ以テ催告又ハ通知ヲ爲ス能ハサルトキハ第三百三十九條、第四百一條及ヒ第四百十五條乃至第四百十九條ノ規定ヲ準用シテ其調書ノ謄本ヲ送達シ又別ニ送達證ヲ作ラサルトキハ調書ニ其送達ヲ爲シタルコトヲ記載ス可シ

若シ強制執行ノ地ニ於テモ執行裁判所ノ管轄内ニ於テモ送達ヲ爲ス能ハサルトキハ催告又ハ通知ヲ受ク可キ者ニ郵便ヲ以テ調書ノ謄本ヲ送達シ且之ヲ郵便ニ付シタルコトヲ調書ニ記載ス可シ

第五百四十二條 執行行爲ノ際債務者ニ爲ス可キ送達及ヒ通知ハ債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ之ヲ必要トセス

第五百四十三條 此法律ニ於テ裁判所ニ任カセタル執行行爲ノ處分又ハ其行爲ノ共力ハ執行裁判所トシテ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

法律ニ於テ別段ニ裁判所ヲ指定セサル各箇ノ場合ニ於テハ執行手續ヲ爲ス可キ地又ハ之ヲ爲シタル地ヲ管轄スル區裁判所ヲ以テ執行裁判所ト看做ス

執行裁判所ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百四十四條 強制執行ノ方法又ハ執行ニ際シ執達吏ノ遵守ス可キ手續ニ關スル申立及ヒ異議ニ付テハ執行裁判所之ヲ裁判ス又執行裁判所ハ第五百二十二條第三項ニ定メタル命ヲ發スル權ヲ有ス

執達吏力執行委任ヲ受クルヲ拒ミ若クハ委任ニ從ヒ執行行爲ヲ實施スルコトヲ拒ミタルトキ又ハ執達吏ノ計算セシ手数料ニ付キ異議アルトキハ執行裁判所ハ之ヲ裁判スル權ヲ有ス

第五百四十五條 判決ニ因リテ確定シタル請求ニ關スル債務者ノ異議ハ訴ヲ以

テ第一審ノ受訴裁判所ニ之ヲ主張ス可シ

右ノ異議ハ此法律ノ規定ニ從ヒ遲クモ異議ヲ主張スルコトヲ要スル口頭辯

論ノ終結後ニ其原因ヲ生シ且故障ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得サルトキニ限

リ之ヲ許ス

債務者ガ數箇ノ異議ヲ有スルトキハ同時ニ之ヲ主張スルコトヲ要ス

第五百四十六條 前條ノ規定ハ第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ

於テ債務者ガ執行文付與ノ際證明シタリト認メラレタル事實ノ到來ニシテ此

ニ因リ判決ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭ヒ又ハ認メラレタル承繼ヲ爭フトキ

ハ亦之ヲ準用ス但此場合ニ於テ第五百二十二條ノ規定ニ從ヒ執行文ノ付與ニ

對シ異議ヲ申立ツル債務者ノ權ハ此カ爲ニ妨ケラルルコト無シ

第五百四十七條 強制執行ノ續行ハ前二條ノ場合ニ於ケル異議ノ訴ノ提起ニ因

リテ妨ケラルルコト無シ

然レトモ異議ノ爲メ主張シタル事情ガ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ

付キ疎明アリタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ判決ヲ爲スニ至ルマテ保證

ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ停止ス可キコトヲ命シ又ハ

保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行ス可キコトヲ命シ又ハ其爲シタル執行處分

ヲ保證ヲ立テシメテ取消ス可キヲ命スルコトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲シ又急迫ナル場合ニ於テハ裁判長之ヲ爲

ス可トヲ得

急迫ナル場合ニ於テハ執行裁判所モ亦此權利ヲ行使スルコトヲ得此場合ニ於

テハ執行裁判所ハ受訴裁判所ノ裁判ヲ提出セシムル爲ニ相當ノ期間ヲ定ム可

シ此期間ヲ徒過シタルトキハ債權者ノ申立ニ因リ強制執行ヲ續行ス

第五百四十八條 受訴裁判所ハ異議ノ訴ニ付キ裁判スル判決ニ於テ前條ニ掲ケ

タル命ヲ發シ又ハ既ニ發シタル命ヲ取消シ之ヲ變更シ若クハ之ヲ認可スルコ

トヲ得

判決中前項ニ掲グル事項ニ限り職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

右裁判ニ對スル不服ニ付テハ第五百十一條ノ規定ヲ準用ス

第五百四十九條 第三者カ強制執行ノ目的物ニ付キ所有權ヲ主張シ其他目的物

ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨グル權利ヲ主張スルトキハ訴ヲ以テ債權者ニ對シ其強

制執行ニ對スル異議ヲ主張シ又債務者ニ於テ其異議ヲ正當ナリトセザルトキ

ハ債權者及ヒ債務者ニ對シテ之ヲ主張ス可シ

右訴ヲ債權者及ヒ債務者ニ對シテ起ストキハ之ヲ共同被告ト爲ス

右訴ハ執行裁判所ノ管轄ニ屬ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セザル

トキハ執行裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス

強制執行ノ停止及ヒ既ニ爲シタル執行處分ノ取消ニ付テハ第五百四十七條及

ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス但執行處分ノ取消ハ保證ヲ立テシメスシテ

之ヲ爲スコトヲ得

第五百五十條 強制執行ハ左ノ書類ヲ提出シタル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ之

ヲ制限ス可シ

第一 執行ス可キ判決若クハ其假執行ヲ取消ス旨又ハ強制執行ヲ許サスト

シテ宣言シ若クハ其停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正

本

第二 執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル裁判ノ正

本

第三 執行ヲ免ガルル爲メ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタル旨ヲ記載シタル

公正ノ證明書

第四 執行ス可キ判決ノ後ニ債權者カ辨濟ヲ受ケ又ハ義務履行ノ猶豫ヲ承

諾シタル旨ヲ記載シタル證書

第五百五十一條 前條第一號及ヒ第三號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分

ヲ取消ス可ク第四號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシ

ム可ク第二號ノ場合ニ於テハ其裁判ヲ以テ從前ノ執行行爲ノ取消ヲ命セサル

民事訴訟法 強制執行 總則

トキニ限り既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可シ  
第五百五十二條 強制執行ノ開始後ニ債務者ガ死亡スルトキハ強制執行ハ遺産ニ對シ之ヲ續行ス可シ

債務者ノ知ルコトヲ要スル執行行爲ヲ實施スル場合ニ於テ相續人アラサルトキ又ハ相續人ノ所在明ガナラサルトキハ執行裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ遺産又ハ相續人ノ爲メ特別代理人ヲ任ス可シ

第五百五十三條 強制執行ヲ開始後ニ戶主タリシ債務者カ其地位ヲ辭シ又ハ之ヲ失ヒタルトキハ此變更ノ生セシ當時債務者ノ所持シタル財産ニ付キ前條ノ規定ヲ準用ス

第五百五十四條 強制執行ノ費用ハ必要ナリシ部分ニ限り債務者ノ負擔ニ歸ス此費用ハ強制執行ヲ受クル請求ト同時ニ之ヲ取立ツ可シ  
強制執行ノ基本タル判決ヲ廢棄若クハ破毀シタルトキハ其費用ハ之ヲ債務者ニ辨濟ス可シ

第五百五十五條 執行ノ爲メ官廳ノ援助ヲ必要トスルトキハ裁判所ハ其援助ヲ官廳ニ求ム可シ

第五百五十六條 豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シ兵營及ヒ軍事用廳舎又ハ軍艦ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ管轄ノ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲ス

囑託ニ因リ差押ヘタル物ハ債權者ノ委任シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ  
第五百五十七條 外國ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キ場合ニ於テ其外國官廳カ本邦裁判所ニ法律上ノ共助ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ外國官廳ニ囑託ス可シ

外國駐在ノ本邦領事ニ依リ強制執行ヲ爲シ得ヘキトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ其領事ニ囑託ス可シ

第五百五十八條 強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五百五十九條 強制執行ハ左ノ諸件ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第一 抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判

第二 執行命令

第三 訴ヲ提起後受訴裁判所ニ於テ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ

於テ爲シタル和解

第四 第三百八十一條ノ規定ニ從ヒ區裁判所ニ於テ爲シタル和解

第五 公證人カ其權限内ニ於テ成規ノ方式ニ依リ作りタル證書但一定ノ金

額ノ支拂又ハ他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ヲ給付ヲ以テ目的

トスル請求ニ付キ作りタル證書ニシテ直チニ強制執行ヲ受ク可キ旨ヲ記

載シタルモノニ限ル

第五百六十條 前條ニ掲ケタル債務名義ニ因レル強制執行ニハ第五百十六條乃

至第五百五十八條ノ規定ヲ準用ス但第五百六十一條、第五百六十二條ノ規定

ニ依リ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第五百六十一條 執行命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承

繼アル場合ニ限リ執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

請求ニ關スル異議ハ執行命令ヲ送達後ニ生シタル原因ニ基クトキニ限り之ヲ

許ス

執行文付與ニ付テハ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ際

到來シタリト認メタル承繼ヲ争フ訴ハ執行命令ヲ發シタル區裁判所之ヲ管轄

ス但其請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノナルトキハ管轄地方裁判所ニ其

訴ヲ起ス可シ

第五百六十二條 公證人ヲ作りタル證書ノ執行力アル正本ハ其證書ヲ保存スル

公證人之ヲ付與ス

執行文付與ニ關スル異議ニ付テハ裁判及ヒ更ニ執行文付與ニ付テハ裁判ハ公

證人職務上ノ住所ヲ有スル地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

請求ニ關スル異議ノ主張ニ付テハ第五百四十五條第二項ニ規定シタル制限ニ

民事訴訟法 強制執行 總則

從ハス

執行文付與ニ付テノ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ニ係リ此ニ因リテ證書ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭フ訴ハ債務者カ本邦ニ於テ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對シ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所之ヲ管轄ス

第五百六十三條 本編ニ定メタル裁判籍ハ專屬ナリトス

第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第一節 動産ニ對スル強制執行

第一款 通則

第五百六十四條 動産ニ對スル強制執行ハ差押ヲ以テ之ヲ爲ス

差押ハ執行力アル正本ニ掲ケタル請求ヲ債權者ニ辨濟スル爲メ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フ爲ニ必要ナルモノノ外ニ及ホスコトヲ得ス

差押フ可キ物ヲ換價スルモ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス

第五百六十五條 第三者カ差押ヲ受ク可キ物ニ付キ物上ノ擔保權ヲ有スルモ差押ヲ妨クルコトヲ得ス然レトモ第五百四十九條ノ規定ニ從ヒ訴ヲ以テ賣得金

ニ付キ優先ノ辨濟ヲ請求スル權利ハ此カ爲ニ妨ケラルコト無シ

此場合ニ於テ請求ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付キ説明アリタルトキハ裁判所ハ賣得金ノ供託ヲ命ス可シ但此事項ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス

第二款 有體動産ニ對スル強制執行

第五百六十六條 債務者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲ス

其物ハ債權者ノ承諾アルトキ又ハ其運搬ヲ爲スニ付キ重大ナル困難アルトキハ之ヲ債務者ノ保管ニ任ス可シ此場合ニ於テハ封印其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 百九十七

明白ニスルトキニ限り其效力ヲ生ス

執達吏ハ債務者ニ其差押ヲ爲シタルコトヲ通知ス可シ

第五百六十七條 前條ノ規定ハ債權者又ハ物ノ提出ヲ拒マサル第三者ノ占有中

ニ在ル物ノ差押ニ付テモ亦之ヲ準用ス

第五百六十八條 果實ハ未ダ土地ヨリ離レサル前ト雖モ之ヲ差押フルコトヲ得

然レトモ其差押ハ通常ノ成熟時期ノ前一个月内ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得

ス

蠶ハ其多分ヲ繭ヲ成造スル爲メ揚リ蠶ト爲リタル後ニ非サレバ之ヲ差押フル

コトヲ得ス

第五百六十九條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然ノ產出物ニモ當然及ブモ

ス

第五百七十條 左ニ掲グル物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第一 衣服、寢具、家具及ヒ廚具但此物ハ債務者及ヒ其家族ノ爲メ缺ク可

カラサルトキニ限ル

第二 債務者及ヒ其家族ニ必要ナル一个月間ノ食料及ヒ薪炭

第三 技術者、職工、勞役者及ヒ穩婆ニ在テハ其營業上缺ク可カラサル物

第四 農業者ニ在テハ其農業上缺ク可カラサル農具、家畜、肥料及ヒ次ノ

收穫マテ農業ヲ續行スル爲メ缺ク可カラサル農産物

第五 文武ノ官吏、神職、僧侶、公立私立ノ教育場教師、辯護士、公證人

及ヒ醫師ニ在テハ其職業ヲ執行スル爲メ缺ク可カラサル物並ニ身分相當

ノ衣服

第六 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ニ在テハ第六百

十八條ニ規定スル職務上ノ收入又ハ恩給ノ差押ヲ受ケサル金額但差押ヨ

リ次期ノ俸給又ハ恩給ノ支拂マテノ日數ニ應シテ之ヲ計算ス

第七 藥舖ニ在テハ調藥ヲ爲ス爲メ缺ク可カラサル器具及ヒ藥品

第八 勳章及ヒ名譽ノ證標

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 百九十九

執行

第九 實印其他職業ニ必要ナル印

第十 神體、佛像其他禮拜ノ用ニ供スル物

第十一 系譜

第十二 債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル發明ニ關スル物及ヒ債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル著述ノ稿本

第十三 債務者及ヒ其家族力學校ニ於テ使用ニ供スル書籍

然レトモ債務者ノ承諾アルトキハ第三號乃至第八號ニ掲ケタル物ヲ除ク外之

ヲ差押フルコトヲ得

第五百七十一條 差押物保存ノ爲メ特別ノ處分ヲ必要トスルトキハ執達吏ハ適

當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス可シ若シ此カ爲ニ費用ヲ要スルトキハ債權者ヲシテ

之ヲ豫納セシメ又債權者數名關係スルトキハ其要求額ノ割合ニ從ヒテ其各債

權者ヨリ之ヲ豫納セシム可シ

第五百七十二條 執達吏ハ差押ヲ實施シタル後債權者又ハ裁判所ノ特別委任ヲ

要セスシテ以下數條ノ規定ニ從ヒテ公ノ競賣方法ヲ以テ其差押物ヲ賣却ス可

シ

第五百七十三條 競賣ス可キ物ノ中ニ高價ノモノ有ルトキハ執達吏ハ適當ナル

鑑定人ヲシテ其評價ヲ爲サシム可シ

第五百七十四條 差押金錢ハ之ヲ債權者ニ引渡ス可シ

執達吏力金錢ヲ取立テタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但

保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免ガルルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ

此限ニ在ラス

第五百七十五條 差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ニハ少ナクトモ七日ノ時間ヲ存ス

ルコトヲ要ス但差押債權者ノ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者及

ヒ債務者力競賣ヲ更ニ早ク爲サンコトヲ合意シタルトキ又ハ差押物ヲ永ク貯

藏スルニ付キ不相應ノ費用若クハ其物ノ價格ノ著シク減少スル危害ヲ避ケン

爲メ競賣ヲ早ク爲スコトノ必要ナルトキハ此限ニ在ラス

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百一

執行

執行

執行

執行

執行

執行

執行

執行

執行

執行

執行

執行

執行



第五百七十六條

競賣ハ差押ヲ爲シタル市町村ニ於テ之ヲ爲ス但差押債權者及  
七債務者カ他ノ地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十七條

最高價競買ノ爲メノ競落ハ其價額ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲  
ス

競落物ノ引渡ハ代金ト引換ヘ之ヲ爲ス

最高價競買人競賣條件ニ定メタル支拂期日又ハ其定ナキトキハ競賣期日ノ終

ル前ニ代金ノ支拂ヲ爲シテ物ノ引渡ヲ求メサルトキハ更ニ其物ヲ競賣ス可シ

此場合ニ於テハ前ノ最高價競買人ハ競買ニ加ハルコトヲ得ス且再度ノ競落代

價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ヲ擔任ス可シ其高キトキハ剩餘ヲ請

求スルコトヲ得ス

第五百七十八條

競賣ハ賣得金ヲ以テ債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用  
ヲ償フニ足ルニ至ルトキハ直テ之ヲ止ム可シ

第五百七十九條

執達吏賣得金ヲ領收シタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタル  
モノト看做ス但保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カルルコトヲ債務者ニ  
許シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百八十條

金銀物ハ其金銀ノ實價ヨリ以下ニ競落スルコトヲ許サズ其實價  
マテニ競買ヲ爲ス者ナキトキハ執達吏ハ金銀ノ實價ニ達スル價額ヲ以テ適宜  
ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

第五百八十一條

執達吏有價證券ヲ差押ヘタルトキハ相場アルモノハ賣却日ノ  
相場ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却シ其相場ナキモノハ一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ競賣  
ス可シ

第五百八十二條

有價證券ノ記名ナルトキハ執行裁判所ハ買主ノ氏名ニ書換チ  
爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲ス權ヲ執達吏ニ與フル  
コトヲ得

第五百八十三條

無記名ノ證券ニシテ記名ニ換ヘ又ハ他ノ方法ニ依リ流通ヲ止  
民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百三  
執行

メタルモノナルトキハ執行裁判所ハ其流通回復ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リテ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

第五百八十四條 土地ヨリ離レサル前ニ差押ヘタル果實ノ競賣ハ其成熟ノ後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス執達吏ハ競賣ノ爲メ其收穫ヲ爲サシムル權利アリ  
差押ヘタル蠶ノ競賣ハ全ク繭ト爲リタル後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス

第五百八十五條 差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者又ハ債務者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ前數條ノ規定ニ依ラス他ノ方法又ハ他ノ場所ニ於テ差押物ノ賣却ヲ爲スコキ旨又ハ執達吏ニ依ラス他ノ者ヲシテ競賣ヲ爲サシム可キ旨ヲ命スルコトヲ得

第五百八十六條 執達吏ハ既ニ差押ヘタル物ニ付キ他ノ債權者ノ爲メ更ニ差押ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス

執達吏ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ノ閱覽ヲ求メテ物ノ照査ヲ爲シ未タ差押ニ係ラサル物アルトキハ之ヲ差押ヘ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ

差押調書ヲ交付シ且總テノ差押物ヲ競賣ニ付スコキコトヲ求ム可シ若シ差押フ可キ物アラサルトキハ照査調書ヲ作り既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ

前項ノ求ニ因リ執行ニ關スル債權者ノ委任ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ法律上移轉ス

假差押ニ係ル物ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第五百八十七條 前條ニ掲ケタル物ノ照査手續ハ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ爲シタル差押力取消ト爲リタルトキハ差押ノ效力ヲ生ス

第五百八十八條 適當ナル期間經過スルモ執達吏競賣ヲ爲ササルトキハ差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者ハ一定ノ期間内ニ競賣ヲ爲スコキコトヲ催告シ其催告ノ效アラサルトキハ相當ノ命令アラコトヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得

第五百八十九條 民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者ハ執行力アル正本ニ因  
民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百五

ラスシテ賣得金ノ配當ヲ要求スルコトヲ得

第五百九十條 前條ノ配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ

事務所ヲモ有セサル者ハ假在所ヲ選定シ執達吏ニ之ヲ爲ス可シ

第五百九十一條 第五百八十六條第二項及ヒ第五百九十條ノ場合ニ於テ執達吏

ハ配當要求ノ有リタルコトヲ配當ニ與カル各債權者及ヒ債務者ニ通知ス可

シ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ執達

吏ノ通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ執達吏ニ申

立ツ可シ

債務者カ認諾セサルコトヲ執達吏ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知ア

リタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ

第五百九十二條 配當ノ要求ハ競賣期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百九十三條 賣得金ヲ以テ配當ニ與カル各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサ

ル場合ニ於テ債權者間ニ配當ノ協議調ハサルトキハ其賣得金ヲ供託ス可シ

數多ノ債權者ノ爲メ同時ニ金錢ヲ差押ヘタルトキ之ヲ以テ各債權者ヲ満足セ

シムルニ足ラサル場合ニ於テモ亦同シ

右ノ場合ニ於テ執達吏ハ其事情ヲ執行裁判所ニ届出ツ可ク其届書ニハ執行手

續ニ關スル書類ヲ添附ス可シ

第三款 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

第五百九十四條 第三者(第二債務者)ニ對スル債權者ノ債權ニシテ金錢ノ支拂

又ハ他ノ有體物若クハ有價證券ノ引渡若クハ給付ヲ目的トスルモノノ強制執

行ハ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ爲ス

第五百九十五條 執行裁判所トシテハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判

所若シ此區裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴ヲ管

轄スル區裁判所管轄權ヲ有ス

第五百九十六條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ差押フ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ

民事訴訟法

強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百七

開示ス可シ

右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五百九十七條 差押命令ハ豫メ第三債務者及ヒ債務者ノ審訊ヲ經スシテ之ヲ發ス

第五百九十八條 金錢ノ債權ヲ差押フ可キトキハ裁判所ハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁シ又債務者ニ對シ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲スコカラサルコトヲ命ス可シ

差押命令ハ職權ヲ以テ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達シ又債權者ニハ其送達シタル旨ヲ通知ス可シ

差押ハ第三債務者ニ對スル送達ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百九十九條 抵當アル債權ノ差押ノ場合ニ於テハ債權者ハ債務者ノ承諾ヲ要セスシテ其債權ノ差押ヲ登記簿ニ記入スル權利アリ

此記入ノ申請ハ裁判所ニ之ヲ爲スコシ其申請ハ差押命令ノ申請ト之ヲ併合ス

ルコトヲ得

裁判所ハ義務ヲ負フタル不動産ノ所有者(第三債務者)ニ差押命令ヲ送達シタル後記入ノ手續ヲ爲スコシ

第六百條 差押ヘタル金錢ノ債權ニ付テハ差押債權者ノ選擇ニ從ヒ代位ノ手續ヲ要セスシテ之ヲ取立ツル爲メ又ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押債權者ニ之ヲ轉付スル爲メ命令アラントコトヲ申請スルコトヲ得

右命令ノ送達ニ付テハ第五百九十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百一條 支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ轉付スル命令アル場合ニ於テハ其債權ノ存スル限リハ第五百九十八條第二項ノ手續ヲ爲スニ因リ債務者ハ債權ノ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス

第六百二條 取立ノ爲メノ命令ハ其債權ノ全額ニ及フモノトス但執行裁判所ハ

債務者ノ申立ニ因リ差押債權者ヲ審訊シテ差押額ヲ其債權者ノ要求額マテニ制限シ其超過スル額ノ處分殊ニ取立ヲ爲スヲ許スコトヲ得其制限シタル部分

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百九 執行

三限リ他ノ債權者ハ配當要求ヲ爲スコトヲ得ス  
右許可ハ第三債務者及ヒ債權者ニ通知ス可シ

第六百三條 手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因レル債權ノ差押  
ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲ス

第六百四條 俸給又ハ此ニ類スル繼續收入ノ債權ノ差押ハ債權額ヲ限トシ差押  
後ニ收入ス可キ金額ニ及フモノトス

第六百五條 職務上收入ノ差押ハ債務者ノ轉官兼任又ハ増俸ニ因ル收入ニモ亦  
及フモノトス

第六百六條 債務者ハ債權ニ關スル所持ノ證書ヲ差押債權者ニ引渡ス義務アリ  
債權者ハ差押命令ニ基キ強制執行ノ方法ヲ以テ其證書ヲ債務者ヨリ取上ケシ  
ムルコトヲ得

第六百七條 第五百五條第二項ニ從ヒテ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲  
サシメテ執行ヲ免カルルコトヲ許ス可キトキハ差押ヘタル金錢債權ニ付テハ

取立ノ命令ノミヲ爲ス可シ但此命令ハ第三債務者ヲシテ債務額ヲ供託セシム  
ル效力ノミヲ有ス

第六百八條 債權者取立ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツ可シ  
第六百九條 差押債權者ハ第三債務者ヲシテ差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間内  
ニ書面ヲ以テ左ノ陳述ヲ爲サシメントト裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第一 債權ノ認諾ノ有無及ヒ其限度並ニ支拂ヲ爲ス意思ノ有無及ヒ其限  
度

第二 債權ニ付キ他ノ者ヨリノ請求ノ有無及ヒ其種類

第三 債權カ既ニ他ノ債權者ヨリ差押ヘラレタルコトノ有無及ヒ其請求ノ  
種類

右ノ陳述ヲ求ムル催告ハ之ヲ送達證書ニ記載ス可シ第三債務者陳述ヲ怠リタ  
ルトキハ此ニ因リテ生スル損害ニ付キ其責ニ任ス

第六百十條 債權者カ命令ノ旨趣ニ基キ第三債務者ニ對シ訴ヲ起スニ至リタル  
民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百十一  
執行

トキハ一般ノ規定ニ從ヒテ管轄ヲ有スル裁判所ニ其訴ヲ起シ且債務者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其訴訟ヲ之ニ告知ス可シ

第六百十一條 債權者カ取立ヲ爲ス可キ債權ノ行用ヲ忘リタルトキハ此方爲メ債務者ニ生シタル損害ノ責ニ任ス

第六百十二條 債權者ハ命令ニ因リ取立ヲ爲メ取得シタル權利ヲ拋棄スルコトヲ得但此方爲メ其請求ヲ害セラルルコト無シ  
此拋棄ハ裁判所ニ届書ヲ差出シテ之ヲ爲ス但其謄本ハ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達ス可シ

第六百十三條 差押ヘタル債權カ條件附若クハ有期ナルトキ又ハ反對給付ニ繫リ若クハ他ノ理由アリテ其取立ノ困難ナルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ取立ニ換ヘ他ノ換價方法ヲ命スルコトヲ得

債務者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其申立ヲ許ス決定前ニ之ヲ審訊ス可シ

第六百十四條 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ對スル強制執行ハ以下數條ノ規定ヲ斟酌シテ第五百九十八條乃至第六百十二條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第六百十五條 有體動産ノ請求ノ差押ニ付テハ其動産ヲ債權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ

右動産ノ換價ニ付テハ差押物ノ換價ニ關スル規定ヲ適用ス

第六百十六條 不動産ノ請求ノ差押ニ付テハ債權者ノ申立ニ因リ其不動産ヲ不動産所在地ノ區裁判所ヨリ命シタル保管人ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ

引渡シタル不動産ニ付テノ強制執行ハ不動産ニ對スル強制執行ニ付テノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第六百十七條 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ付テハ支拂ニ換ヘ轉付スル命令ヲ爲スコトヲ得ス

第六百十八條 左ニ掲クル債權ハ之ヲ差押アルコトヲ得ス  
第一 法律上ノ養料

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百十三 執行

第二 債務者カ義捐建設所ヨリ又ハ第三者ノ慈惠ニ因リ受クル繼續ノ收入  
但債務者及ヒ其家族ノ生活ノ爲メ必要ナルモノニ限ル

第三 下士、兵卒ノ給料並ニ恩給及ヒ其遺族ノ扶助料

第四 出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乗組員ニ屬スル軍人、軍屬ノ  
職務上ノ收入

第五 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ノ職務上ノ收入、  
恩給及ヒ其遺族ノ扶助料

第六 職工、勞役者又ハ雇人カ其勞力又ハ役務ノ爲ニ受クル報酬

第一號、第五號、第六號ノ場合ニ於テ職務上ノ收入、恩給其他ノ收入カ一个  
年間ニ三百圓ヲ超過スルトキハ其超過額ノ半額ヲ差押フルコトヲ得

第六百十九條 數名ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ債權ノ差押ニ付テハ前  
數條ノ規定ヲ準用ス

第六百二十條 執行力アル正本ヲ有スル債權者及ヒ民法ニ從ヒ配當ノ要求ヲ爲

シ得ヘキ債權者ハ差押債權者カ取立ヲ爲シ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツルマテ  
又ハ執達吏カ賣得金ヲ領收スルマテ配當ヲ要求スルコトヲ得但執行力アル正  
本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ニ付テハ第五百九十條及ヒ第五百九十  
一條第二項第三項ノ規定ヲ適用ス

支拂ニ換ヘテノ轉付ノ命令アリタル後ハ配當ノ要求ヲ爲スコトヲ得ス  
右配當要求ハ職權ヲ以テ之ヲ第三債務者、債務者及ヒ差押債權者ニ送達シ又  
既ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル  
債權者ノ爲メ要求ノ順序ニ因リ差押ノ效力ヲ生ス

第六百二十一條 金錢ノ債權ニ付キ配當要求ノ送達ヲ受ケタル第三債務者ハ債  
務額ヲ供託スル權利アリ

第三債務者ハ配當ニ與カル或ル債權者ノ求ニ因リ債務額ヲ供託スル義務アリ

第三債務者債務額ヲ供託シタルトキハ其事情ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百十五  
執行

第六百二十二條 請求カ不動産ニ關スルトキハ第三債務者ハ其不動産所在地ノ區裁判所カ差押債權者又ハ第三債務者ノ申立ニ因リ命シタル保管人ニ事情ヲ開示シ且送達セラレタル命令ヲ添ヘ其不動産ヲ引渡ス權利ヲ有シ又ハ差押債權者ノ求ニ因リ之ヲ引渡ス義務アリ

第六百二十三條 第三債務者カ取立手續ニ對シテ義務ヲ履行セサルトキハ差押債權者ハ訴テ以テ之ヲ履行セシムルコトヲ得

執行力アル正本ヲ有スル各債權者ハ共同訴訟人トシテ原告ニ加ハル權利アリ  
訴ヲ受ケタル第三債務者ハ原告ニ加ハラサル債權者ヲ共同訴訟人トシテ呼出アラシムコトヲ口頭辯論ノ第一期日マテニ申立ツルコトヲ得

右ノ場合ニ於ケル裁判ハ呼出ヲ受ケタル債權者ニ利害ヲ及ホス效力アリ  
第六百二十四條 差押債權者取立手續ヲ怠リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル各債權者ハ一定ノ期間内ニ取立ヲ爲ス可キコトヲ催告シ其催告ノ

效アラサルトキハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自ラ取立ヲ爲スコトヲ得

第六百二十五條 不動産ヲ目的トセス又前數條ニ掲ケタル以外ノ財産權ニ對スル強制執行ニ付テハ本款ノ規定ヲ準用ス

若シ第三債務者ナキトキハ差押ハ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁スル命令ヲ送達シタル日時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

右ノ場合ニ於テハ裁判所ハ特別ノ處分殊ニ其權利ノ管理若クハ讓渡ヲ命スルコトヲ得

第四款 配當手續

第六百二十六條 配當手續ハ動産ニ對スル強制執行ニ際シ競賣期日又ハ金錢差押ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニ債權者間ノ協議調ハサル爲メ金額ヲ供託シタルトキ之ヲ爲ス

第六百二十七條 裁判所ハ事情届書ニ基キ七日ノ期間内ニ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可キ旨ヲ各債權者ニ催告ス可シ

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百十七 執行



第六百二十八條 前條ノ期間滿了後裁判所ハ配當表ヲ作ル可シ

右期間ヲ遵守セサル債權者ノ債權ハ配當表ヲ作ルニ際シ配當要求並ニ届書ノ旨趣及ヒ其憑據書類ニ依リ之ヲ計算ス但後ニ債權額ヲ補充スルコトヲ許サズ

第六百二十九條 裁判所ハ配當表ニ關スル陳述及ヒ配當實施ノ爲メ期日ヲ指定シ其期日ニハ各債權者及ヒ債務者ヲ呼出ス可シ但債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ呼出ヲ爲スコトヲ要セス

配當表ハ各債權者及ヒ債務者ニ閱覽セシムル爲メ遅クトモ期日ノ三日前ニ裁判所書記課ニ之ヲ備置ク可シ

第六百三十條 期日ニ於テ異議ノ申立ナキトキハ配當表ニ從ヒテ其配當ヲ實施ス可シ

停止條件附ノ債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託シ民法ニ從ヒテ條件ノ成否ニ依リ後ニ之ヲ支拂ヒ又ハ更ニ配當ス可シ

第五百九十一條第三項ノ場合又ハ假差押ノ場合ニ於テ未タ確定セサル債權其他異議アル債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ

配當實施ニ付テハ調書ヲ作ル可シ

第六百三十一條 異議ノ申立アルトキハ他ノ債權者ハ直チニ陳述ヲ爲ス可シ若シ關係人異議ヲ正當ナリト認ムルトキ又ハ他ノ方法ニ於テ合意スルトキハ之ニ從ヒ配當表ヲ更正シテ配當ヲ實施ス可シ

異議ノ完結セサルトキハ異議ナキ部分ニ限り配當ヲ實施ス可シ

第六百三十二條 期日ニ出頭セサル債權者ハ配當表ノ實施ニ同意シタルモノト看做ス

若シ期日ニ出頭セサル債權者カ他ノ債權者ヨリ申立テタル異議ニ關係ヲ有スルトキハ其債權者ハ異議ヲ正當ナリト認メサルモノト看做ス

第六百三十三條 期日ニ於テ異議ノ完結セサルトキハ異議ヲ申立テタル債權者ハ他ノ債權者ニ對シ訴ヲ起シタルコトヲ期日ヨリ七日ノ期間内ニ裁判所ニ證

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百十九 執行

明ス可シ若シ其期間ヲ徒過シタル後ハ裁判所ハ異議ニ拘ハラズ配當ノ實施ヲ命ス可シ

第六百三十四條 異議ヲ申立テタル債權者前條ノ期間ヲ怠リタルトキト雖モ配當表ニ從ヒテ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シ訴ヲ以テ優先權ヲ主張スル權利ハ配當實施ノ爲メ妨ケラレルコト無シ

第六百三十五條 異議ヲ申立テタル債權者ノ訴ニ付テハ配當裁判所之ヲ管轄ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セザルトキハ其配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス若シ數箇ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ一ノ訴カ地方裁判所カ管轄スルトキハ其他ノ訴ヲモ亦之ヲ管轄ス但各債權者總テノ異議ニ付キ配當裁判所ノ裁判ヲ受ケ可キコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百三十六條 異議ニ付キ裁判ヲ爲ス判決ニハ配當額ノ係争部分ヲ如何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ以テ支拂フ可キヤヲ定ム可シ若シ之ヲ定ムルコトヲ

適當トセザルトキハ判決ニ於テ新ナル配當表ノ調製及ヒ他ノ配當手續ヲ命ス可シ

第六百三十七條 異議ヲ申立テタル債權者カ日頭辯論ノ期日ニ出頭セザルトキハ異議ヲ取下ケタルモノト看做ス旨ノ闕席判決ヲ爲ス可シ

第六百三十八條 前二條ノ判決確定後證明アルトキハ配當裁判所ハ其判決ニ基キ支拂又ハ他ノ配當手續ヲ命ス

第六百三十九條 裁判所ハ配當表ニ依リテ左ノ手續ヲ爲シ配當ヲ實施ス可シ

債權全部ノ配當ヲ受ケ可キ債權者ニハ配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ其所持スル執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ

債權一分ノミノ配當ヲ受ケ可キ債權者ニハ執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ニ配當額ヲ記入シテ返還シ且配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ右債權者ヨリ金額ヲ登記シタル受取書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百二十一 執行

期日ニ出頭セサル債権者ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ  
右ノ手續ヲ爲シタルトキハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニス可シ

第二節 不動産ニ對スル強制執行

第一款 通則

第六百四十條 不動産ニ對スル強制執行ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス

第一 強制競賣

第二 強制管理

債権者ハ自己ノ選擇ニ依リ一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ執行セシムルコトヲ得

強制管理ハ假差押ノ執行ノ爲ニモ亦之ヲ爲ス

第六百四十一條 不動産ニ對スル強制執行ニ付テハ其不動産所在地ノ區裁判所執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス若シ其不動産數箇ノ區裁判所ノ管轄區内ニ散在

スルトキハ第二十六條ノ規定ヲ適用ス

強制執行ハ申立ニ因リテ裁判所之ヲ爲ス

第二款 強制競賣

第六百四十二條 強制競賣ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 債権者、債務者及ヒ裁判所ノ表示

第二 不動産ノ表示

第三 競賣ノ原因タル一定ノ債權及ヒ其執行シ得ヘキ一定ノ債務名義

第六百四十三條 申立ニハ執行力アル正本ノ外左ノ證書ヲ添附ス可シ

第一 登記簿ニ債務者ノ所有トシテ登記シタル不動産ニ付テハ登記判事ノ  
認證書

第二 登記簿ニ登記アラサル不動産ニ付テハ債務者ノ所有タルコトヲ證ス  
可キ證書

第三 地所ニ付テハ國郡市町村、字、番地、地目、反別若クハ坪數、土地  
民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百二十三  
執行

臺帳ニ登録シタル地價及ヒ其地所ニ付キ納ム可キ一介年ノ租稅其他ノ公課ヲ證ス可キ證書

第四 建物ニ付テハ國郡市町村、字、番地、構造ノ種類、建坪及ヒ其建物ニ付キ納ム可キ一介年ノ公課ヲ證ス可キ證書

第五 地所、建物ニ付キ賃貸借アル場合ニ於テハ其期限竝ニ借貸ヲ證ス可キ證書

第二號、第三號及ヒ第四號ノ要件ニ付テハ債權者公簿ヲ主管スル官廳ニ其證明書ヲ求ムルコトヲ得

第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ證明スル能ハサルトキハ債權者ハ競賣申立ノ際其取調ヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得但此場合ニ於テハ裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サシム可シ

強制管理ノ爲メ既ニ不動産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ其執行記録ニ第一號乃至第五號ノ要件ヲ記載シタルモノ有ルトキハ其證書ヲ添附スルコトヲ要セス

第六百四十四條 競賣手續ノ開始決定ニハ同時ニ債權者ノ爲メ不動産ヲ差押フルコトヲ宣言ス可シ

差押ハ債務者カ不動産ノ利用及ヒ管理ヲ爲スコトヲ妨ケス

差押ハ其決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第六百四十五條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制競賣ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

右申立ハ執行記録ニ添附スルニ因リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル競賣手續取消ト爲リタルトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セザル限リハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス

假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第六百四十六條 配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セザル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲スコシ

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百二十五 執行

右要求ハ競落期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百四十七條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ利害關係人ニ通知ス可シ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ右通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ裁判所ニ申出ヅ可シ

債務者カ認諾セサルコトヲ裁判所ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ

第六百四十八條 左ニ掲クル者ヲ競賣手續ニ於テノ利害關係人ト爲ス

第一 差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者

第二 債務者

第三 登記簿ニ記入アル不動産上權利者

第四 不動産上權利者トシテ其債權ヲ證明シ執行記録ニ備フ可キ届出ヲ爲

シタル者

第六百四十九條 差押債權者ノ債權ニ先ツ債權ニ關スル不動産ノ負擔ヲ競落人ニ引受ケシムルカ又ハ賣却代金ヲ以テ其負擔ヲ辨濟スルニ足ル見込アルトキニ非サレハ賣却ヲ爲スコトヲ得ス

不動産ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ因リテ消滅ス(民法施行法第五十一條ヲ以テ改正)

留置權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其留置權ヲ以テ擔保スル債權ヲ辨濟スル責ニ任ス(同上)

質權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其質權ヲ以テ擔保スル債權及ヒ質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル者ノ債權ヲ辨濟スル責ニ任ス(同上)

第六百五十條 權利ヲ取得スル第三者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知リタルトキハ差押ノ效力ニ對シ其善意ナリシコトヲ主張スルコトヲ得ス

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百二十七

若シ不動産カ差押ノ原因タル債權ノ爲メ義務ヲ負擔スルトキハ差押後所有ノ移轉シタル場合ニ限り新所有者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知ラサルトキト雖モ競賣手續ヲ續行ス可シ

第六百五十一條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲ス際職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス可キ旨ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

第六百五十二條 登記判事ハ前條ニ掲ケタル記入ヲ爲シタル後登記簿ノ謄本ヲ裁判所ニ送付シ不動産上權利者ヨリ差出シタル證書アルトキハ其抄本ヲモ送付ス可シ

第六百五十三條 豫メ知ルニ於テハ手續ノ開始ヲ妨ク可キ事實カ登記判事ノ通知ニ依リ顯ハルルトキハ裁判所ハ其事情ニ因リ直チニ手續ヲ取消シ又ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル期間内ニ其障礙ノ消滅シタルコトヲ證明ス可キコトヲ

債權者ニ命ス可シ其期間内ニ此證明ヲ爲ササルトキハ期間ノ滿了後職權ヲ以テ手續ヲ取消ス可シ

第六百五十四條 裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ニ通知シ其不動産ニ對スル債權ノ有無及ヒ限度ヲ申出ツ可キコトヲ期間ヲ定メテ催告ス可シ

第六百五十五條 裁判所ハ登記判事及ヒ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ヨリ通知ヲ受ケタル後鑑定人ヲシテ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額ト爲ス

第六百五十六條 裁判所ハ最低競賣價額ヲ以テ差押債權者ノ債權ニ先ツ不動産上ノ總テノ負擔及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル見込ナシトスルトキハ差押債權者ニ其旨ヲ通知ス可シ

右通知ヨリ七日ノ期間内ニ差押債權者カ前項ノ負擔及ヒ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル可キ價額ヲ定メ且其價額ニ應スル競買人ナキ場合ニ於テハ自ら其價額ヲ  
民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百二十九 執行

以テ買受ク可キ旨ヲ申立テ十分ナル保證ヲ立テサルトキハ競賣手續ヲ取消ス可シ

第六百五十七條 裁判所ハ前條第一項ノ債權及ヒ費用ヲ辨濟シ剩餘ヲ得ル見込アルトキ又ハ差押債權者前條第二項ノ申立ヲ爲シ十分ナル保證ヲ立テタルトキハ職權ヲ以テ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告ス  
第六百五十八條 競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 第一 不動産ノ表示
- 第二 租稅其他ノ公課
- 第三 貸貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃
- 第四 強制執行ニ因リ競賣ヲ爲ス旨
- 第五 競賣期日ノ場所、日時及ヒ競賣ヲ爲ス可キ執達吏ノ氏名並ニ住所
- 第六 最低競賣價額
- 第七 競落期日ノ場所及ヒ日時

第八 執行記録ヲ閱覽シ得ヘキ場所

第九 登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上權利ヲ有スル者其債權ヲ申出ツ可キ旨

第十 利害關係人競賣期日ニ出頭ス可キ旨

第六百五十九條 競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ此期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カシム

第六百六十條 競落期日ハ競賣期日ヨリ七日ヲ過クルコトヲ得ス此期日ハ裁判所ニ於テ之ヲ開ク

第六百六十一條 競賣期日ノ公告ハ左ノ箇所ニ揭示シテ之ヲ爲ス

- 第一 裁判所ノ揭示板
  - 第二 不動産所在地ノ市町村ノ揭示板
- 此他公告ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ掲載スルコトヲ得
- 民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百三十一 執行

第六百六十二條 最低競賣價額ヲ除ク外本款ニ掲ケタル賣却條件ノ變更ハ利害關係人ノ合意アルトキニ限り之ヲ許ス但此合意ハ競賣期日ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百六十三條 競賣期日ヲ開キタル後執達吏ハ執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シ又特別ノ賣却條件アルトキハ之ヲ告知シ且競賣價額申出ヲ催告ス可シ

第六百六十四條 利害關係人カ或ル競買人ヨリ保證ヲ立テシメシコトヲ申立ツルトキハ其競買人カ保證トシテ競買價額十分ノ一二當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達吏ニ預クルトキニ非サレハ其競買ヲ許サス  
右申立ハ競買價額ノ申出アリタル後直チニ之ヲ述フルコトヲ要ス其申立ハ同一ナル競買人ノ其後ノ競買ニ付テモ亦效力アリ

第六百六十五條 競買ヲ許サレタル各競買人ハ更ニ高價ノ競買ノ許アルマテ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受ケルモノトス  
競賣ハ競買價額ヲ申出ツ可キ催告後滿一時間ヲ過クルニ非サレハ之ヲ終局ス

ルコトヲ得ス

第六百六十六條 執達吏ハ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタル後競賣

ノ終局ヲ告知ス可シ  
他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競買ノ責務ヲ免カレ且預ケタル保證アルトキハ即時ニ其返還ヲ求ムル權利アリ

第六百六十七條 競賣ニ付キ作成可キ調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 不動産ノ表示

第二 差押債權者ノ表示

第三 執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シタルコト又特別賣却條件アルトキハ之ヲ告知シタルコト

第四 競買價額ノ申出ヲ催告シタル日時

第五 總テノ競買價額並ニ其申出人ノ氏名、住所又ハ許ス可キ競買ノ申出  
民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百三十三  
執行



ナキコト

第六 競賣ノ終局ヲ告知シタル日時

第七 申立ニ因リ競買ノ爲メ保證ヲ立テタルコト又ハ申立アルモ保證ヲ立

テサル爲メ其競買ヲ許ササルコト

第八 最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタルコト

最高價競買人及ヒ出頭シタル利害關係人ハ調書ニ署名捺印ス可シ若シ此等ノ

者調書ノ作成前ニ退席シタルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

競買ノ保證ノ爲メ預リタル金銭又ハ有價證券ヲ返還シタルトキハ執達吏ハ受

取證ヲ取り之ヲ調書ニ添附ス可シ

第六百六十八條 執達吏ハ調書及ヒ總テ競買ノ保證ノ爲メ預リタル金銭又ハ有

價證券ニシテ返還セサルモノハ三日内ニ裁判所書記ニ之ヲ渡ス可シ

第六百六十九條 最高價競買人執行裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セ

サルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ若シ之ヲ忘

リタルトキハ第四百四十三條第三項ノ規定ヲ進用ス

住所ノ選定ハ執達吏ニ口述シ其調書ヲ作ラシメテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百七十條 競賣期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ第四百十

九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ裁判所ハ其意見ヲ以テ最低競賣價額ヲ相

當ニ低減シ新競賣期日ヲ定ム可シ若シ其期日ニ於テ仍ホ許ス可キ競買價額ノ

申出ナキトキモ亦同シ

新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

第六百七十一條 裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル利害關係人ニ競落ノ許可ニ付

キ陳述ヲ爲サシム可シ

競落ノ許可ニ付テノ異議ハ期日ノ終ニ至ルマテニ之ヲ申立ツ可シ既ニ申立テ

タル異議ニ對スル陳述ニ付テモ亦同シ

第六百七十二條 競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ノ理由ニ基クコトヲ要ス

第一 強制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ續行ス可カラサルコト

民事訴訟法 強制執行 金銭ノ債權ニ付テノ強制 二百三十五

執行

第二 最高價競買人賣買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動産ヲ取得スル能力ナキ

コト

第三 法律上ノ賣却條件ニ牴觸シテ競買ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關

係人ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルコト

第四 競賣期日ノ公告ニ第六百五十八條ニ掲ケタル要件ノ記載ナキコト

第五 競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ依リテ之ヲ爲ササルコ

ト

第六 第六百五十九條ニ規定シタル期間ヲ存セサリシコト

第七 第六百六十五條第二項及ヒ第六百六十六條第一項ノ規定ニ違背シタ

ルコト

第八 第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人ナリト呼上ケタルコ

ト

第六百七十三條 異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テハ之ヲ許サ

ス

第六百七十四條 裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスルトキハ競落ヲ許サス

第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ一アルトキハ職權ヲ以テ

モ競落ヲ許サス但第一號ノ場合ニ於テハ競賣シタル不動産ヲ讓渡スコトヲ得

サルモノナルトキ又ハ競賣手續ノ停止ヲ爲シタルトキニ限り第二號ノ場合ニ

於テハ能力若クハ資格ノ欠缺ヲ除去セラレサルトキニ限り第三號ノ場合ニ於

テハ利害關係人手續ノ續行ニ付キ承認セサルトキニ限ル

第六百七十五條 數箇ノ不動産ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於テ或ル不動産ノ賣得

金ヲ以テ各債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キトキハ

他ノ不動産ニ付テハ競落ヲ許サス

此場合ニ於テ債務者ハ其不動産中賣却ス可キモノヲ指定スルコトヲ得

第六百七十六條 第六百七十二條及ヒ第六百七十四條ノ規定ニ從ヒ全ク競落ヲ

許ササル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許ス可キトキハ職權ヲ以テ新競賣期日ヲ定ム

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百三十七

執行

可シ

新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

第六百七十七條 前條ノ規定ニ從ヒテ新競賣期日ヲ定ムル場合ノ外競落ヲ許シ又ハ許ササル決定ノ言渡ヲ爲ス可シ

競落期日ノ調書ニ付テハ第二百二十九條乃至第三百三十二條及ヒ第三百三十四條ノ規定ヲ準用ス

第六百七十八條 競賣期日ト競落期日トノ間ニ天災其他ノ事變ニ因リ不動産カ著シク毀損シタルトキハ最高價競買人タル呼上チ受ケタル者ハ其競買ヲ取消ス權利アリ其毀損ノ著シキヤ否ヤハ裁判所事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第六百七十九條 競落ヲ許ス決定ニハ競賣ヲ爲シタル不動産、競落人及ヒ競落ヲ許シタル競買價額ヲ掲ケ又特別ノ賣却條件ヲ以テ競落ヲ爲シタルトキハ其條件ヲモ掲ケ可シ

右決定ハ之ヲ言渡ス外尙ホ裁判所ノ掲示板ニ揭示シテ公告ス可シ

第六百八十條 利害關係人ハ競落ノ許否ニ付テノ決定ニ因リ損失ヲ被ムル可キ場合ニ於テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

競落ヲ許ス可キ理由ナキコト又ハ決定ニ掲ケタル以外ノ條件ヲ以テ許ス可キコトヲ主張スル競落人又ハ競落ヲ求メ之ヲ許ス可キコトヲ主張スル競買人モ亦即時抗告ヲ爲スコトヲ得

右抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第二項ノ場合ニ於テ競落ヲ求メタル競買人ハ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス

第六百八十一條 競落ヲ許ササル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲ケル總テノ不許ノ原因ナキコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

競落ヲ許シタル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲ケル競落ノ許可ニ對スル異議ノ原因ノ一ヲ理由トスルトキ又ハ競落決定カ競落期日ノ調書ノ旨趣ニ牴觸シタルコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百三十九 執行

取消ノ訴若クハ原狀回復ノ訴ノ要件ヲ理由トスル抗告ハ前二項ノ規定ニ依リ妨ケラレルコト無シ

第六百八十二條 抗告裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ反對陳述ヲ爲サシムル爲メ抗告人ノ相手方ヲ定ム可シ

一ノ決定ニ關スル數箇ノ抗告ハ互ニ之ヲ併合ス可シ  
第六百七十三條及ヒ第六百七十四條ノ規定ハ抗告審ニモ亦之ヲ準用ス

第六百八十三條 執行裁判所ノ決定ヲ變更シ又ハ廢棄シタル抗告裁判所ノ裁判ハ執行裁判所之ヲ裁判所ノ揭示板ニ揭示シテ公告ス可シ

第六百八十四條 競落ヲ許ササル決定確定シタルトキハ競落入及ヒ競落ヲ求メタル競買人ハ其競買ノ責務ヲ免カル

第六百八十五條 第六百七十八條ノ場合ニ於テ競買取消ノ爲メ競落ヲ許ササルトキハ第六百五十五條乃至第六百五十七條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十六條 競落入ハ競落ヲ許ス決定ニ因リテ不動産ノ所有權ヲ取得スル

モノトス

第六百八十七條 競落入ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ不動産ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得ス

競落入若クハ債權者競落ヲ許ス決定アリタル後引渡アルマテ管理人ヲシテ不動産ヲ管理セシメンコトヲ申立テタルトキハ裁判所ハ之ヲ命ス可シ

債務者方引渡ヲ拒ミタルトキハ競落入若クハ債權者ノ申立ニ因リ裁判所ハ執達吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ其不動産ヲ管理人ニ引渡サシム可シ

第六百八十八條 競落入カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ不動産ノ再競賣ヲ命ス可シ

最初ノ競賣ノ爲ニ定メタル最低競賣價額其他賣却條件ハ再競賣ノ手續ニモ亦之ヲ適用ス

再競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ  
競落入カ再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルト

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百四十一 執行

キハ再競賣手續ヲ取消ス可シ

再競賣ヲ爲ストキハ前ノ競落人ハ競買ニ加ハルコトヲ許サス且再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ノ額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔シ其高キトキハ剩餘ノ額ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百八十九條 共有物持分ノ強制競賣ニ付テハ債權者ノ債權ノ爲メ債務者ノ持分ニ付キ強制競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス但他ノ共有者ニハ其強制競賣ノ申立ヲ通知ス可シ

最低競賣價額ハ共有物全部ノ評價額ニ基キ債務者ノ持分ニ付キ之ヲ定ム可シ

第六百九十條 競賣申立カ競落ヲ許スコト無クシテ完結シタルトキハ裁判所ハ

第六百五十一條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル記入ノ抹消ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

第六百九十一條 競落ヲ許ス決定確定スルトキハ賣却代金カ配當ニ與カル各債

權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テハ民法、商法及ヒ特別法ニ從ヒテ之ヲ配當ス可シ

第六百九十二條 各債權者ハ競落期日マテニ其債權ノ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可シ

前項ノ規定ニ從ハサル債權者ニ付テハ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百九十三條 代金ノ支拂及ヒ配當ハ競落ヲ許ス決定ノ確定後ニ裁判所カ職權ヲ以テ定ムル期日ニ於テ之ヲ爲ス

此期日ニハ利害關係人、執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者及ヒ競落人ヲ呼出ス可シ

第六百九十四條 期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ不動産ノ賣却代金ノ幾許ナルヲ定ム可シ

左ノモノヲ賣却代金トス

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百四十三 執行

第一 代金

第二 不動産が果實其他金銭に見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於

テハ競落決定言渡ヨリ代金支拂マテノ利息

代金支拂ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

最高競買價額ノ保證ノ爲メ預リタル金額ハ代金ニ之ヲ算入ス

第六百九十五條 裁判所ハ出頭シタル利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラス

シテ配當ヲ要求スル債權者ヲ訊問シテ配當表ヲ確定ス可シ

第六百九十六條 配當表ニハ賣却代金各債權者ノ債權ノ元金、利息、費用及ヒ

配當ノ順位並ニ配當ノ割合ヲ記載ス可シ

若シ出頭シタル總テノ利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要

求スル債權者一致シタルトキハ其一致ニ基キ配當表ヲ作ル可シ

第六百九十七條 配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配當表ノ實施ニ付テハ第六百

三十條以下ノ規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルモノハ此

限ニ在ラス

第六百九十八條 期日ニ出頭シタル債務者ハ各債權者ノ債權ニ對シ又ハ其債權

ノ爲メ主張スル順位ニ對シ異議ヲ申立ツル權利アリ

出頭シタル各債權者ハ自己ノ利害ニ關シテハ他ノ債權者ニ對シ前項ト同一ノ

權利アリ

執行スルヲ得ヘキ債權ニ對スル債務者ノ異議ハ第五百四十五條、第五百四十

七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ完結ス

第六百九十九條 競落人ハ賣却條件ニ因リ不動産ノ負擔ヲ引受クル外配當表ノ

實施ニ際シ買入代金ノ額ニ滿ツルヲ限トシ關係債權者ノ承諾ヲ得テ買入代金

ノ支拂ニ換ヘ債務ヲ引受クルコトヲ得若シ債權者競落人ナルトキハ其債權ノ

配當額ヲ買入代金ノ額ニ滿ツル限りハ買入代金トシテ之ヲ計算スルニ因リテ

消滅ス然レトモ引受ク可キ債務又ハ計算ス可キ競落人ノ債權ニ對シ適當ナル

異議アルトキハ之ニ相當スル代金ヲ支拂ヒ又ハ保證ヲ立ツ可シ

民事訴訟法

強制執行

金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百四十五

第七百條 配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當調書及ヒ競落決定ノ正本ヲ登記  
判事ニ送付シテ左ノ諸件ヲ囑託ス可シ

第一 競落人ノ所有權ノ登記

第二 競落人ノ引受ケサル不動産上負擔記入ノ抹消

第三 第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル記入ノ抹消

右登記及ヒ抹消ニ關スル總テノ費用ハ競落人之ヲ負擔ス可シ

第七百一條 數多ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ不動産ノ競賣手續ニ付テ  
ハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第七百二條 裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以  
テ競賣ニ換ヘテ入札拂ヲ命スルコトヲ得但入札拂ニ付テハ以下數條ニ於テ別  
段ノ規定ナキモノハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第七百三條 入札ハ入札期日ニ於テ執達吏ニ之ヲ差出ス可シ  
入札ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 入札人ノ氏名及ヒ住所

第二 不動産ノ表示

第三 入札價額

第七百四條 執達吏ハ入札人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封シ之ヲ朗讀ス可シ

二人以上同價額ノ入札アルトキハ執達吏ハ其者ヲシテ追加ノ入札ヲ爲サシメ  
最高價入札人ヲ定ム

一定ノ金額ヲ以テ入札價額ヲ表セスシテ他ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ價  
額ヲ表シタル入札ハ之ヲ許サス

第七百五條 最高價入札人タル呼上ヲ受ケタル者第六百六十四條ノ規定ニ從ヒ  
保證ヲ立ツ可キ求テ受クルモ之ヲ立テサルトキハ其次位ノ入札人ヲ以テ最高  
價入札人ト定ム但此場合ニ於テハ最初呼上ヲ受ケタル者ハ其入札價額ト次位  
ノ入札價額トノ差金ヲ負擔スル義務アリ

第三款 強制管理

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百四十七  
執行

第七百六條 強制管理ニ付テハ第六百四十二條、第六百四十三條、第六百四十四條第一項第三項及ヒ第六百五十一條乃至第六百五十四條ノ規定ヲ準用ス

不動産カ債權者ノ債權ニ付キ不動産上ノ義務ヲ負フタル場合ニ於テハ第六百四十三條第一號第二號ニ依リ提出ス可キ證書ハ不動産ヲ債權者カ占有スルコトヲ疏明スル證書ヲ以テ足ル

第七百七條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ニ於テ債務者カ管理人ノ事務ニ干渉スルコト及ヒ不動産ノ收益ニ付キ處分スルコトヲ禁シ又不動産ノ收益ノ給付ヲ爲ス可キ第三者アルトキハ其第三者ニ其後ノ給付ヲ管理人ニ爲ス可キコトヲ命ス可シ

既ニ收穫シ若クハ收穫ス可ク又ハ期限ノ到來シ若クハ到來ス可キ果實ハ收益ニ屬ス

開始決定ハ第三者ニ對シテハ之ヲ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ職權

ヲ以テ之ヲ爲ス

第七百八條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制管理ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

右申立ハ執行記録ニ添附スルニ依リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル強制管理ノ取消ト爲リタルトキハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス  
假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第七百九條 配當要求ハ執行力アル正本ニ因リ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

第七百十條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ債權者、債務者及ヒ管理人ニ通知ス可シ

第七百十一條 管理人ハ裁判所之ヲ任命ス但債權者ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得

管理人ハ管理及ヒ收益ノ爲メ自ラ不動産ヲ占有スル權ヲ有ス此場合ニ於テ抵

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百四十九 執行



抗ヲ受クルトキハ執達吏ヲ立會ハシムルコトヲ得  
管理人ノ任命ハ債務者ニ代リ第三者ノ給付ス可キ收益ヲ取立ツル權ヲ授與ス  
ルモノトス

第七百十二條 裁判所ハ債權者及ヒ債務者ヲ審訊シタル後又適當トスル場合ニ  
於テハ鑑定人ヲ立會ハシメタル上管理人ニ管理ニ關シ必要ナル指揮ヲ爲シ又  
管理人ニ與フ可キ報酬ヲ定メ且管理人ノ業務施行ヲ監督ス可シ

裁判所ハ管理人ニ保證ヲ立テシメ又ハ貳拾圓以下ノ過料ヲ言渡シ又ハ其職ヲ  
免スルコトヲ得

第七百十三條 第三者不動産ニ付キ強制管理ヲ許スコトヲ妨クル權利ヲ主張ス  
ルトキハ第五百四十九條ノ規定ヲ準用ス

第七百十四條 管理人ハ直チニ不動産ニ付キ得タル收益ヨリ其不動産ノ負擔ニ  
係ル租稅其他ノ公課ヲ控除シタル後別段ノ手續ヲ要セスシテ管理ノ費用ヲ辨  
濟シ其殘額ノ配當ニ付キ債權者間ニ協議調ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ届出

ツ可シ

前項ノ届出アリタルトキハ裁判所ハ第六百九十一條、第六百九十六條乃至第  
六百九十八條ノ規定ヲ準用シテ配當表ヲ作り其配當表ニ基キ管理人ヲシテ債  
權者ニ支拂ヲ爲サシム可シ

第七百十五條 管理人ハ毎年及ヒ其業務施行ノ終了後各債權者、債務者及ヒ裁  
判所ニ計算書ヲ差出ス可シ

各債權者及ヒ債務者ハ計算書ノ送達アリタルヨリ七日ノ期間内ニ執行裁判所  
ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

右期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ計算ニ付キ全ク異議ナク且管理人ノ卸任ヲ  
承諾シタルモノト看做ス

異議ノ申立アルトキハ裁判所ハ管理人ヲ審訊シタル後之ヲ裁判ス可シ若シ異  
議ノ申立ナク又ハ申立テタル異議ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ管理人ヲシテ  
卸任セシム可シ

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百五十一  
執行

第七百十六條 強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

此取消ハ各債權者不動産ノ收益ヲ以テ辨濟ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

若シ管理續行ノ爲メ特別ノ費用ヲ要スルトキ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルニ於テハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ右ノ取消ヲ決定スル際登記判事ニ強制管理ニ關スル記入ノ抹消ヲ囑託ス可シ

第三節 船舶ニ對スル強制執行

第七百十七條 商船其他ノ海船ニ對スル強制執行ハ不動産ノ強制競賣ニ關スル

規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但事物ノ性質ニ因リテ差異ノ顯ハルルトキ又ハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルトキハ此限ニ在ラス

端舟其他構權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ構權ヲ以テ運轉スル舟ニハ本節ノ規定ヲ適用セス

第七百十八條 船舶ノ強制競賣ニ付テハ船舶カ差押ノ當時碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

第七百十九條 船舶ハ執行手續中差押ノ港ニ之ヲ碇泊セシム可シ然レトモ商業上利益ノ爲メ適當トスル場合ニ於テハ裁判所ハ總テノ利害關係人ノ申立ニ因リ航行ヲ許スコトヲ得

第七百二十條 強制競賣ニ付テノ申立ニハ左ノ證書ヲ添附ス可シ

第一 債務者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又船長ナル場合ニ於テハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ證明スルニ足ル可キ證書

第二 船舶カ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有效ナル各登記事項ヲ包含シタル登記簿ノ抄本

債權者ハ公簿ヲ主管スル官廳カ遠隔ノ地ニ在ルトキハ第二號ノ抄本ノ求アラソコトヲ執行裁判所ニ申立ツルコトヲ得

民事訴訟法同強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百五十三 執行

第七百二十一條 裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシム可シ

此處分ヲ爲シタルトキハ開始決定ノ送達前ト雖モ差押ノ效力ヲ生ス  
若シ此處分ヲ續行スル爲メ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ之ヲ取消スコトヲ得

第七百二十二條 船長ニ對シ爲シタル判決ニ基キ船舶債權者ノ爲メ船舶ノ差押ヲ爲ストキハ其差押ハ所有者ニ對シテモ效力アリ此場合ニ於テハ所有者モ亦利害關係人トス

差押後所有者若クハ船長ノ變更アルモ手續ノ續行ヲ妨ケス

差押後新ニ船長ト爲リタル者ハ之ヲ利害關係人トス此場合ニ於テハ前船長ハ其關係人タル責務ヲ免カル

第七百二十三條 船舶カ差押ノ當時其裁判所管轄内ニ存セサルコトノ顯ハルルトキハ其手續ヲ取消スコシ

第七百二十四條 競賣期日ノ公告ニハ第六百五十八條第一號ニ掲ケタル旨趣ニ換ヘテ船舶ノ表示及ヒ其碇泊ノ場所ヲ掲ケ可シ

第七百二十五條 定繫港ノ區裁判所管轄外ニ於テ差押ヲ爲シタルトキハ執行裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ定繫港ノ區裁判所ニ送付シ其裁判所ノ揭示板ニ揭示スコキコトヲ囑託スコシ

第七百二十六條 船舶ノ股分ニ對スル強制執行ハ第六百二十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス其執行ニ付テハ定繫港ノ區裁判所之ヲ管轄ス

第七百二十七條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ債務者カ船舶ノ股分ニ付キ所有權ヲ有スルコトヲ證スコキ船舶登記簿ノ抄本又ハ信用スコキ證明書ヲ添附スコシ

差押命令ハ債務者ノ外船舶管理人ニモ之ヲ送達スコシ

差押ハ此命令ヲ船舶管理人ニ送達スルニ因リ債務者ニ送達スルト同一ノ效力ヲ生ス

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制 二百五十五 執行

第七百二十八條 船舶股分ノ競賣代金ノ配當ニ付テハ第六百二十六條以下ノ規定ヲ準用ス

第七百二十九條 外國ノ船舶ヲ差押ヘタルトキ又ハ登記簿ニ登記セサル船舶ヲ差押ヘタルトキハ登記簿ニ記入ス可キ手續ニ關スル規定ヲ適用セス

第三章 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

第七百三十條 債務者カ特定ノ動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡ス可キトキハ執達吏ハ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債權者ニ引渡ス可シ

第七百三十一條 債務者カ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡ス可キトキハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシム可シ

此強制執行ハ債權者又ハ其代理人カ受取ノ爲メ出頭シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

強制執行ノ目的物ニ非サル動産ハ執達吏之ヲ取除キテ債務者ニ引渡ス可シ若シ債務者不在ナルトキハ其代理人又ハ債務者ノ成長シタル家族若クハ雇人ニ

之ヲ引渡ス可シ

債務者及ヒ前項ニ掲ケタル者不在ナルトキハ執達吏ハ右ノ動産ヲ債務者ノ費用ニテ保管ニ付ス可シ

債務者カ其動産ノ受取ヲ怠ルトキハ執達吏ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ控除シタル後其代金ヲ供託ス可シ

第七百三十二條 引渡ス可キ物カ第三者ノ手中ニ存スルトキハ債務者ハ引渡シ請求ハ申立ニ因リ金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉付ス可シ

第七百三十三條 民法第四百十四條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ

受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス(民法施行法第五十四條ヲ以テ本項改正)

債權者ハ同時ニ其行爲ヲ爲スニ因リ生ス可キ費用ヲ豫メ債務者ニ支拂ヲ爲サ

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ支拂ヲ目的トセサ 二百五十七  
ル債權ニ付テノ強制執行

シムル決定ノ宣言アラシキコトヲ申立ツルコトヲ得但其行為ヲ爲スニ因リ此ヨリ多額ノ費用ヲ生スルトキ後日其請求ヲ爲ス權利ヲ妨ケス

第七百三十四條 債務ノ性質カ強制履行ヲ許ス場合ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間内ニ履行ヲ爲ササルトキハ其遲延ノ期間ニ應シ一定ノ賠償ヲ爲スヘキコト又ハ直チニ損害ノ賠償ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス(民法施行法第五十五條ヲ以テ改正)

第七百三十五條 前二條ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得但決定前債務者ヲ審訊ス可シ

第七百三十六條 債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾ス可キコト又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ爲ス可キコトノ判決ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス反對給付ノ有リタル後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其效力ヲ生ス

第四章 假差押及ヒ假處分

第七百三十七條 假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求ニ付キ動産又ハ不動産ニ對スル強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得

假差押ハ未タ期限ニ至ラサル請求ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第七百三十八條 假差押ハ之ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ殊ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ル可キトキハ之ヲ爲スコトヲ得

第七百三十九條 假差押ノ命令ハ假ニ差押フ可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

第七百四十條 假差押ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ掲グ可シ

第一 請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサルトキハ其價額

第二 假差押ノ理由タル事實ノ表示

民事訴訟法 強制執行 假差押及ヒ假處分

請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ疏明ス可シ

申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第七百四十一條 假差押ノ申請ニ付テハ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

請求又ハ假差押ノ理由ヲ疏明セサルトキト雖モ假差押ニ因リ債務者ニ生ズ可キ損害ノ爲メ債權者カ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコトヲ得

又請求及ヒ假差押ノ理由ヲ疏明シタルトキト雖モ裁判所ハ保證ヲ立テシメ假差押ヲ命スルコトヲ得

保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルコト及ヒ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルコトヲ假差押ノ命令ニ記載ス可シ

第七百四十二條 假差押ノ申請ニ付テハ裁判ハ口頭辯論ヲ爲ス場合ニ於テハ終局判決ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

假差押ノ申請ヲ却下シ又ハ保證ヲ立テシムル裁判ハ債務者ニ之ヲ通知スルコトヲ要セス

第七百四十三條 假差押ノ命令ニハ假差押ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ル爲メ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲メ債務者ヨリ供託ス可キ金額ヲ記載ス可シ

第七百四十四條 債務者ハ假差押決定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得  
此異議ニ付テハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ヲ開示ス可シ  
異議ノ申立ハ假差押ノ執行ヲ停止セス

第七百四十五條 異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ口頭辯論ノ爲メ當事者ヲ呼出ス可シ

裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ全部若クハ一分ノ認可、變更又ハ取消ヲ言渡シ又自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立ツ可キコトノ條件ヲ附シテ之ヲ言渡スコトヲ得

民事訴訟法 強制執行 假差押及ヒ假處分

第七百四十六條 本案ノ未タ繫屬セサルトキハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經スシテ相當ニ定ムル期間内ニ訴ヲ起ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ

此期間ヲ徒過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ終局判決ヲ以テ假差押ヲ取消ス可シ

第七百四十七條 債務者ハ假差押ノ理由消滅シ其他事情ノ變更シタルトキ又ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立テントノ提供ヲ爲シタルトキハ假差押ノ認可後ト雖モ假差押ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得

此申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判ス其裁判ハ假差押ヲ命シタル裁判所又本案カ既ニ繫屬シタルトキハ本案ノ裁判所之ヲ爲ス

第七百四十八條 假差押ノ執行ニ付テハ強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第七百四十九條 假差押ノ命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於

テ承繼アル場合ニ限り執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立入ニ命令ヲ送達シタルヨリ十四日ノ期間ヲ徒過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ許サス

右執行ハ債務者ニ差押命令ヲ送達スル前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得

第七百五十條 動産ニ對スル假差押ノ執行ハ各差押ト同一ノ原則ニ從ヒテ之ヲ爲ス

債權ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

債權ノ假差押ニ付テハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁スル命令ノミヲ爲ス可シ

假差押ノ金錢ハ之ヲ供託ス可シ其他假差押物ノ競賣及ヒ假差押有價證券ノ換價ハ一時之ヲ爲サス然レトモ假差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐アルト

キ又ハ其貯藏ニ付キ不相應ナル費用ヲ生ス可キトキハ執行裁判所ハ申立ニ因リ其物ヲ競賣シ賣得金ヲ供託ス可キ旨ヲ執達吏ニ命スルコトヲ得

第七百五十一條 不動産ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ命令ヲ登記簿ニ記入スルニ因リテ之ヲ爲ス

第七百五十二條 假差押執行ノ爲メ強制管理ヲ爲ス場合ニ於テハ保全ス可キ債權ニ相當スル金額ヲ取立テ之ヲ供託ス可シ

第七百五十三條 船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ當時碇泊スル港ニ碇泊セシムルコトニ因リテ之ヲ爲ス裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲ス

第七百五十四條 假差押命令ニ於テ定メタル金額ヲ供託シタルトキハ執行裁判所ハ執行シタル假差押ヲ取消ス可シ

假差押ノ續行ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且之カ爲メ必要ナル金額ヲ債權者カ豫納セサルトキモ亦執行裁判所ハ假差押ノ取消ヲ命スルコトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得  
假差押ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七百五十五條 係争物ニ關スル假處分ハ現状ノ變更ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス

第七百五十六條 假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ假差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第七百五十七條 假處分ノ命令ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス  
右裁判ハ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百五十八條 裁判所ハ其意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム

假處分ハ保管人ヲ置キ又ハ相手方ニ行爲ヲ命シ若クハ之ヲ禁シ又ハ給付ヲ命スルコトヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ禁シタルトキハ裁判所ハ第七百五十一條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ記入セシム可シ

民事訴訟法 強制執行 假差押及ヒ假處分 二百六十五



第七百五十九條 特別ノ事情アルトキニ限り保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スコトヲ得

第七百六十條 假處分ハ争アル權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル爲ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得但其處分ハ殊ニ繼續スル權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキニ限ル

第七百六十一條 急迫ナル場合ニ於テハ係争物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ當否ニ付テノ口頭辯論ヲ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出ス可キ申立ノ期間ヲ定メ假處分ヲ命スルコトヲ得

此期間ヲ徒過シタル後區裁判所ハ申立ニ因リ其命シタル假處分ヲ取消ス可シ

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百六十二條 本章ノ規定ニ於ケル本案ノ管轄裁判所ハ第一審裁判所トス但

本案ヲ控訴審ニ繫屬スルトキニ限り控訴裁判所トス

第七百六十三條 急迫ナル場合ニ於テ口頭辯論ヲ要セサルモノニ限り裁判長ハ

本章ノ申立ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得

第七編 公示催告手續

第七百六十四條 請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サシムル爲メノ裁判上ノ公示催告ハ其届出ヲ爲ササルトキハ失權ヲ生スル效力ヲ以テ法律ニ定メタル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

公示催告手續ハ區裁判所之ヲ管轄ス

第七百六十五條 公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

此申立ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

申立ヲ許ス可キトキハ裁判所ハ公示催告ヲ爲ス可ク其公示催告ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 申立人ノ表示

民事訴訟法 公示催告手續

第二 請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ届出ツ可キコトノ催告

第三 届出ヲ爲ササルニ因リ生ス可キ失權ノ表示

第四 公示催告期日ノ指定

第七百六十六條 公示催告ニ付テノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示シ及ヒ官報又ハ公報ニ掲載シテ之ヲ爲シ其他法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ第五百五十七條第三項ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第七百六十七條 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ少ナクモ二个月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第七百六十八條 公示催告期日ノ終リタル後ト雖モ除權判決前ニ届出ヲ爲ストキハ適當ナル時間ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七百六十九條 除權判決ハ申立ニ因リテ之ヲ爲ス

右判決前ニ詳細ナル探知ヲ爲ス可キ旨ヲ命スルコトヲ得

除權判決ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判決ニ付シタル制限又ハ留保ニ對シテ今即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十條 申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ争フコトノ届出アリタルトキハ其事情ニ從ヒ届出テタル權利ニ付テノ裁判確定スルマテ公示催告手續ヲ中止シ又ハ除權判決ニ於テ届出テタル權利ヲ留保ス可シ

第七百七十一條 申立人カ公示催告期日ニ出頭セサルトキハ其申立ニ因リ新期日ヲ定ム可シ此申立ハ公示催告期日ヨリ六个月ノ期間内ニ限り之ヲ爲スコトヲ許ス

第七百七十二條 公示催告手續ヲ完結スル爲メ新期日ヲ定メタルトキハ其期日ノ公告ヲ爲スコトヲ要セス

第七百七十三條 裁判所ハ除權判決ノ重要ナル旨趣ヲ官報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十四條 除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

民事訴訟法 公示催告手續

除權判決ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人ニ對スル訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第一 法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス場合ニ非サルトキ

第二 公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サス又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲ササルトキ

第三 公示催告ノ期間ヲ遵守セサルトキ

第四 判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタルトキ

第五 請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘ハラヌ判決ニ於テ其届出ヲ法律ニ

從ヒ顧ミサルトキ

第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

第七百七十五條 不服申立ノ訴ハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告カ除權判決ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ前條第四號及ヒ第六號ニ

掲ケタル不服申立ノ理由ノ一ニ基キ訴ヲ起シ且原告カ右ノ日ニ其理由ヲ知ラ

ザリシ場合ニ於テハ其期間ハ不服ノ理由ノ原告ニ知レタル日ヲ以テ始マル

除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五個年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ得ス

第七百七十六條 裁判所ハ第二百二十條ノ條件ノ存セサルトキト雖モ數箇ノ公示催告ノ併合ヲ命スルコトヲ得

第七百七十七條 盜取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタル手形其他商法ニ無効ト爲シ得ヘキコトヲ定メタル證書ノ無効宣言ノ爲ニ爲ス公示催告手續ニ付テハ

以下數條ノ特別規定ヲ適用ス

此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニ付キ其法律中ニ特別規定ヲ設ケサル限りハ之ヲ適用ス

第七百七十八條 無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且略式裏書ヲ付シタル證書ニ付テハ最終ノ所持人公示催告手續ヲ申立ツル權アリ

此他ノ證書ニ付テハ證書ニ因リ權利ヲ主張シ得ヘキ者此申立ヲ爲ス權アリ

民事訴訟法 公示催告手續

第七百七十九條 公示催告手續ハ證書ニ表示シタル履行地ノ裁判所之ヲ管轄ス  
若シ證書ニ其履行地ヲ表示セザルトキハ發行人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁  
判所之ヲ管轄シ其裁判所ナキトキハ發行人カ發行ノ當時普通裁判籍ヲ有セシ  
地ノ裁判所之ヲ管轄ス

證書ヲ發行スル原因タル請求ヲ登記簿ニ記入シタルトキハ其物ノ所在地ノ裁  
判所ノ管轄ニ專屬ス

第七百八十條 申立人ハ申立ノ憑據トシテ左ノ手續ヲ爲スコシ

第一 證書ノ謄本ヲ差出シ又ハ證書ノ重要ナル旨趣及ヒ證書ヲ十分ニ認知  
スルニ必要ナル諸件ヲ開示スルコト

第二 證書ノ盜難、紛失、滅失及ヒ公示催告手續ヲ申立ツルコトヲ得ルノ  
理由タル事實ヲ説明スルコト

第七百八十一條 公示催告中ニ公示催告期日マテニ權利ヲ裁判所ニ届出テ且其  
證書ヲ提出ス可キ旨ヲ證書ノ所持人ニ催告ス可ク又失權トシテ證書ノ無効宣

言ヲ爲スコキ旨ヲ戒示ス可シ

第七百八十二條 公示催告ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ揭示シ且官報又ハ公報ニ  
掲載シ及ヒ新聞紙ニ三回掲載シテ之ヲ爲スニ要スル一週間ノ間ニ申立人ハ  
公示催告裁判所ノ所在地ニ取引所アルトキハ取引所ニモ亦此公告ヲ揭示ス可  
シ

第七百八十三條 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シ然ル日下公示催告期日トモ  
間ニハ少ク下モ六個月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第七百八十四條 除權判決ニ於テハ證書ヲ無効ナリト宣言ス可シ  
除權判決ノ重要ナル旨趣ハ官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

不服申立ノ訴ニ因リ判決ヲ以テ無効宣言ヲ取消シタルトキハ其判決ヲ確定後  
官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

第七百八十五條 除權判決アリタルトキハ其申立人ハ證書ニ因リ義務ヲ負擔ス  
ル者ニ對シテ證書ニ因レル權利ヲ主張スルコトヲ得

第八編 仲裁手続

第七百八十六條 一名又は數名ノ仲裁人ヲシテ争ノ判斷ヲ爲シムル合意當事者カ係争物ニ付キ和解ヲ爲ス權利アル場合ニ限り其效力チ有ス

第七百八十七條 將來争ニ關スル仲裁契約ニ定メ權利關係及シ其關係生ズル争ニ關セサル下キハ其效力チ有ス

第七百八十八條 仲裁契約ニ仲裁人ヲ選定ニ關スル定メキトキハ當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定ス

第七百八十九條 當事者ハ雙方カ仲裁人ヲ選定スル權利チ有スルニ先ニ手續ヲ爲ス一方ハ書面ヲ以テ相手方ニ其選定シタル仲裁人ヲ指示シ且七日ノ期間内ニ同一ノ手續ヲ爲ス可キ旨ヲ催告ス可シ  
右期間ヲ徒過シタル下キ然管轄裁判所ニ先ニ手續ヲ爲ス一方ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス  
第七百九十條 當事者ノ一方ハ相手方ニ仲裁人選定ノ通知ヲ爲シタル後ハ相手

方ニ對シテ其選定ニ羈束セラル

第七百九十一條 仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受若クハ施行ヲ拒ミタルトキハ其仲裁人ヲ選定シタル當事者ハ相手方ヲ催告ニ因リ七日ノ期間内ニ他ノ仲裁人ヲ選定ス可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ其催告ヲ爲シタル者ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス可シ

第七百九十二條 當事者ハ判事ヲ忌避スル權利アルト同一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁人ヲ忌避スルコトヲ得

此他仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ其責務履行ヲ不當ニ遲延スルトキハ亦之ヲ忌避スルコトヲ得

無能力者、聾者、啞者及ヒ公權ノ剝奪又ハ停止中ノ者ニシテ忌避スルコトヲ得  
第七百九十三條 仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲メ豫定ヲ爲ササ

民事訴訟法 仲裁手続

第三千九百九十九條 契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁人中ノ或ル人カ死亡シ

無効又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ヲ引受テ拒ミ又ハ仲裁人ノ取結

スルニヒタル契約ヲ解キ又ハ其責務ハ履行ヲ不當ニ遅延シタルトキ

第三千九百九十九條 第三千九百九十九條 第三千九百九十九條

第七百九十四條 仲裁人ハ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シ各ルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シ各ルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シ各ルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シ各ルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シ各ルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シ各ルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シ各ルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シ各ルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シ各ルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シ各ルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シ各ルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シ各ルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シ各ルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シ各ルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シ各ルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シ各ルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シ各ルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シ各ルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シ各ルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シ各ルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シ各ルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シ各ルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シ各ルトキ

民事訴訟法 仲裁手続

書を添へて管轄裁判所の書記課ニ之ヲ預ケ置ル可シ其原本ハ送還ス

第八百條 仲裁判斷ハ當事者間ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ效力ヲ

有ス其形式ハ 仲裁判斷ニハ其審判ノ日ヨリ起算シテ一年間ニ於テ之ヲ申立ル可トナ得

第八百一條 仲裁判斷ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ申立ル可トナ得

第一 仲裁手續ヲ許ス可カラカシキニシテ之ヲ行ハシメタル事ニ關シテ其時

第二 仲裁判斷カ法律上禁止ノ行爲ヲ爲ス可キ旨ヲ當事者ニ言渡シタルト

第三 當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレザルニシテ

第四 仲裁手續ニ於テ當事者ヲ審訊セザリシトキ

第五 仲裁判斷ニ理由ヲ付セザリシトキ

第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス

條件ノ存スルトキ

仲裁判斷ノ取消ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ本條第四號及ヒ第五

號ニ掲ケタル理由ニ因リ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八百二條 仲裁判斷ニ因リ爲ス強制執行ハ執行判決ヲ以テ其許ス可キコトヲ

言渡シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

右執行判決ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ理由ノ存スルトキハ之

ヲ爲スコトヲ得ス

第八百三條 執行判決ヲ爲シタル後ハ仲裁判斷ノ取消ハ第八百一條第六號ニ掲

ケタル理由ニ因リ之ヲ申立ツルコトヲ得但當事者カ自己ノ過失ニ非ス

シテ前手續ニ於テ取消ノ理由ヲ主張スル能ハザリシトキハ其疎明シタルトキニ

限ル

第八百四條 仲裁判斷取消ノ訴ハ前條ノ場合ニ於テハ一个月ヲ不變期間内ニ之

ヲ起ス可シ

右期間ハ當事者カ取消ノ理由ヲ知りタル日ヲ以テ始マル然レトモ執行判決ノ

確定前ニハ始マラサルモトス但執行判決ノ確定ト爲リタル日ヨリ起算シテ

民事訴訟法 仲裁手続

二百七十九

五今年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ許サス  
 仲裁判斷ヲ取消ストキハ執行判決ノ取消ヲモ亦言渡ス可シ  
 第八百五條 仲裁人ヲ選定シ若クハ忌避スルコト、仲裁契約ノ消滅スルコト、仲  
 裁手續ヲ許ス可カラサルコト、仲裁判斷ヲ取消スコト又ハ執行判決ヲ爲スニ  
 付テ目的トスル訴ニ付テハ仲裁契約ニ指定シタル區裁判所又ハ地方裁判所之  
 チ管轄シ其指定ナキトキハ請求ヲ裁判上主張スル場合ニ於テ管轄チ有ス可キ  
 區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄ス  
 前項ニ依リ管轄チ有スル裁判所數箇アルトキハ當事者又ハ仲裁人カ最初ニ關  
 係シメタル裁判所之ヲ管轄ス

●民事訴訟法施行條例

(明治二十三年七月十六日) 法律第五十號

朕民事訴訟法施行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月  
 一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

民事訴訟法施行條例

第一條 民事訴訟法實施前ニ提起シタル訴訟ニ付テノ爾後ノ訴訟手續ハ民事訴  
 訟法ニ依リテ之ヲ完結ス

第二條 民事訴訟法實施前ニ闕席ノ儘言渡シタル裁判ニ對シテハ民事訴訟法ニ  
 依リ故障ヲ申立ツルコトヲ得

故障ノ期間ハ新法ニ依リ其實施ノ日ヨリ起算ス但其期間カ舊法ノ控訴上告期  
 限ヲ超過スルトキハ其期限ニ從フ

第三條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ニ對スル控訴上告期限ハ新法ヲ控  
 訴上告期間ニ依リ其實施ノ日ヨリ起算ス但其期間カ舊法ノ控訴上告期限ヲ超

民事訴訟法施行條例



過スルトキハ其期限ニ從フ

第四條 民事訴訟法實施前ニ確定シタル裁判ニ對シテハ民事訴訟法ニ依リ再審

ヲ求ムル訴ヲ爲スコトヲ得但民事訴訟法實施前ニ再審ノ條件生シタルトキハ

其條件ノ生シタル日ヨリ再審ノ期間ヲ起算ス

第五條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ノ強制執行ハ民事訴訟法ニ依リテ

之ヲ完結ス但シ既ニ身代限ノ揭示ヲ爲シ又ハ公賣ニ著手シタル事件ハ其手續

ノ終了マテハ舊法ニ從フ

第六條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ノ執行命令ヲ得サル場合ニ於テ民

事訴訟法第四百九十九條ノ規定ニ從ヒ證明書ヲ要スル者ハ其訴訟記録ノ存在

スル裁判所ニ之ヲ求ムルコトヲ得

第七條 民事訴訟法實施前既ニ勸解ヲ出願シ未タ完結ニ至ラサル事件ハ民事訴

訟法第三百八十一條ノ規定ニ從ヒ區裁判所繼續シテ之ヲ完結スルコトヲ得

第八條 民事訴訟法ノ規定ニ依リ市町村長ノ爲ス可キ職務ハ市町村長ヲ置カサ

ル地ニ在テハ其職務ヲ行フ吏員ニ屬ス

第九條 民事訴訟法ニ於テ親族ト稱スル者ハ當分ノ内刑法ノ親屬例ニ依リ

第十條 婚姻離婚及養子ノ縁組縁離ニ關スル訴ニ付テハ特別ノ慣例アルモノハ

當分ノ内其慣例ニ從フ

第十一條 明治八年第六號布告ハ當分ノ内其效力ヲ有スルモノトス(八年第六

號布告ハ民法施行法第九條ヲ以テ廢止)

第十二條 明治十年第十九號布告控訴上告手續第十六條中大審院トズルヲ上告

裁判所ト改メ該條ハ當分ノ内其效力ヲ有スルモノトス

●民事訴訟法第十四條ニ依リ國ヲ代表スルノ規定

明治二十四年一月六日 勅令第三四號

朕民事訴訟法第十四條ニ依リ國ヲ代表スルニ付テノ規定ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布

民事訴訟法第十四條ニ依リ國ヲ代表スルノ規定 二百八十三

第一條 各省北海道廳及府縣廳ハ其所管又ハ監督スル事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス（二十五年勅令第六號ヲ以テ改正）

第二條 各省大臣ハ省令ヲ以テ所屬特別地方機關中其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スルモノヲ定ムルコトヲ得（同上）

第三條 前二條ノ場合ニ於テ國ヲ代表シ訴訟ヲ爲スモノハ各官廳ノ長官又ハ長官ノ指定シタル所屬官吏トス（同上）

第四條 官制其他特別ノ勅令ヲ以テ民事訴訟ニ付國ヲ代表スル者ヲ定メタルキハ本令ニ依ルノ限ニ在ラス

○勅令 明治三十一年七月 朕臺灣總督府各官廳ノ民事訴訟ニ關シ國ヲ代表スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 臺灣總督府、縣、廳ハ其ノ所管又ハ監督スル事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

第二條 臺灣總督ハ府令ヲ以テ所屬特別地方機關中其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スル者ヲ定ムルコトヲ得

第三條 前二條ノ場合ニ於テ國ヲ代表シ訴訟ヲ爲ス者ハ各官廳ノ長官又ハ長官ノ指定シタル所屬官吏トス

○內務省令 明治二十五年四月 鐵道廳土木監督署衛生試驗所及集治監ハ各

其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス（二十八年內務省令第十一號ヲ以テ及集治監ノ四字ヲ加フ）

但明治二十四年七月內務省令第九號同年十一月內務省令第二十號ハ廢止ス

○內務省令 明治二十五年十月 臨時橫濱築港局ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

本令ハ明治二十五年十月二十五日ヨリ施行ス

民事訴訟法第十四條ニ依リ國ヲ代表スルノ規定 二百八十五

○大藏省令 明治二十五年二月 本年勅令第六號第二條ニ據リ造幣局及各稅

關ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スル者左ノ通相定ム

造幣局及各稅關ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

○大藏省令 明治二十九年十一月 明治二十五年勅令第六號第三條ニ據リ廣

島鑛山及稅務管理局ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スル者左ノ通相定ム

廣島鑛山及稅務管理局ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

○大藏省令 明治三十三年七月 專賣局及ヒ各專賣支局ハ其ノ司掌事務ニ係

ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

○陸軍省令 明治三十五年二月 明治三十二年陸軍省令第十八號左ノ通改正

シ明治三十五年二月一日ヨリ施行ス

明治二十五年勅令第六號第二條ニ依リ師團經理部及臺灣陸軍經理部ハ其ノ司掌  
事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

○海軍省令 明治二十六年七月 明治二十五年(三月)海軍省令第一號左ノ通

改正ス

鎮守府及鎮守府監督部ハ各其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

○司法省令 明治二十五年四月 司法官廳ヨリ起スヘキ民事ノ訴訟ニ於テハ

明治二十五年勅令第六號第二條ニ依リ訴訟ヲ受クヘキ裁判所ノ檢事局ヲシテ國  
ヲ代表セシム

○文部省令 明治三十年十二月 帝國大學文部省直轄諸學校並帝國圖書館ハ

其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

民事訴訟法第十四條ニ依リ國ヲ代表スルノ規定 二百八十七

○農商務省令 明治三十一年一月 一 大林區署、鑛山監督署、農事試驗場、生

絲検査所、蠶業講習所、製鐵所、水産講習所、其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ  
付國ヲ代表ス

○農商務省令 明治三十二年四月 九 號 林野整理支局、其司掌事務ニ係ル民事訴  
訟ニ付國ヲ代表ス

○農商務省令 明治三十二年四月 九 號 林野整理支局、其司掌事務ニ係ル民事訴  
訟ニ付國ヲ代表ス

○遞信省令 明治二十五年一月 三 號 明治二十五年(一月)勅令第六號第二條ニ據  
テ各二等郵便電信局、一等郵便局及電信建築署、電話交換局、其司掌事務ニ係ル民  
事訴訟ニ付國ヲ代表ス

○遞信省令 明治三十三年十一月 八 十三 號 明治二十五年(一月)勅令第六號第二條ニ  
據テ鐵道作業局、其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

○遞信省令 明治三十三年十一月 八 十三 號 明治二十五年(一月)勅令第六號第二條ニ  
據テ鐵道作業局、其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

●訴訟書類郵便送達手数料 (明治二十四年六月六日) 勅令第五十四號

朕訴訟書類郵便送達手数料ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
民事訴訟法第百三十六條ニ依リ郵便ヲ以テ訴訟書類ノ送達ヲ爲ストキハ郵便稅  
書留手数料ノ外送達手数料トシテ一通ニ付五錢ヲ納ムヘシ但其手数料ハ郵便切  
手ヲ以テ前納スルモノトス

●民事訴訟法第百五十二條第百五十三條ニ依ル送達

ノ囑託手續準據方 (明治二十四年九月七日) 司法省訓令第七號

裁判所

民事訴訟法第百五十二條第百五十三條ニ依リテ爲ス送達ノ囑託ニ付キテハ明治  
訴訟書類郵便送達手数料 民事訴訟法第百五十二 二百八十九  
條第百五十三條ニ依ル送達ノ囑託手續準據方

二十三年當省民第九五號訓令ノ手續ニ從フ可キモノトス

二百九十一

●民事上告豫納金手續

(明治十年二月十九日 布告第十九號)

第十六條 上告者ハ其上告狀ニ添テ金拾圓ヲ上告裁判所ニ預ケヘシ若シ其金高ナ預ケサルトキハ上告ヲ爲スコトヲ得ス(二十三年法律第五十號民事訴訟法施行條例第十二條ヲ以テ大審院ヲ上告裁判所ト改メ本條ハ當分ノ内其效力ヲ有スル旨ヲ示ス)

第一 若シ上告ヲ取上ケサルトキハ其預リ金ヲ没入ス

第二 若シ上告ヲ取上ケ原裁判ヲ破毀シタルトキハ預リ金ヲ還付ス

第三 若シ上告ヲ取上ケ被告人ト對審シタルノ後之ヲ斥ケテ原裁判ヲ破毀セサルトキハ預リ金ヲ没入シ又訴訟入費規則ニ照シテ被告人ノ費用ヲ償ハシム(被告人トハ上告者ノ相手方ヲ云フ)

●民事訴訟費用法

(明治二十三年八月十五日 法律第六十四號)

朕民事訴訟費用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

民事訴訟費用法

第一條 民事訴訟法ノ規定ニ於ケル訴訟費用ハ以下數條ノ規定ニ從ヒ之ヲ算定ス

第二條 訴狀其他總テ書類ノ書記料ハ半枚十二行二十字詰ニ付キ金二錢五厘トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ

圖面ハ一葉ニ付金十錢トス但別ニ測量ヲ要シタルトキハ其測量費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第三條 翻譯料ハ半枚十二行二十字詰ニ付キ金五十錢トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ

民事上告豫納金手續 民事訴訟費用法

二百九十一

第四條 民事訴訟用印紙法ニ從ヒ貼用シタル印紙ノ費額ハ其代價ニ依ル

第五條 執達吏ノ手数料及ヒ立替金ハ執達吏手数料規則ノ規定ニ從テ依ル

第六條 郵便料、電信料及ヒ運送料ハ其實費ニ依ル

第七條 官報、公報及ヒ新聞紙ヲ以テ公告シタル公告料ハ各其定價ニ依テ算定ス

第八條 民事訴訟法第二百七條ノ規定ニ從ヒ辯護士ノ附添ヲ命シタルトキハ其報酬ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第九條 當事者ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢トス但滞在費ヲ給スル場合ニ於テハ此日當ヲ二十五錢トス

第十條 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢トス但滞在費ヲ給スル場合ニ於テハ此日當ヲ給セス

第十一條 鑑定人及ヒ通事之日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢乃至五圓ノ範圍内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

鑑定又ハ通辯ニ付キ數多ク時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得

第三十三號ヲ以テ本項改正

第十二條 當事者ノ滞在費ハ滿八里以外ノ地ヨリ來リ滞在スルトキハ一日金十五錢トシ證人、鑑定人及ヒ通事ノ滞在費ハ一日金五十錢トス

第十三條 當事者、證人、鑑定人及ヒ通事ノ旅費ハ海陸滿里毎ニ付キ金十錢トス

第十四條 外國ニ在ル當事者ノ旅費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第十五條 本法ニ定メサル必要ノ費用ハ其實費ニ依ル

第十六條 強制執行及ヒ非訟事件ニ關シ費用ハ執達吏手数料規則ニ定メタルモ其外前數條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ算定ス

民事訴訟費用法

二百九十三

強制執行又ハ非訟事件ニ關シテ保管人若クハ管理人ヲ任命シタルトキハ其費用ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

●民事訴訟用印紙法 (明治二十三年八月十五日法律第六十五號)

朕民事訴訟用印紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

民事訴訟用印紙法

第一條 民事訴訟ノ書類ニハ以下數條ノ規定ニ從ヒ其正本ニ印紙ヲ貼用ス可シ但裁判所書記ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條 財産權上ノ請求ニ係ル第一審ノ訴狀ニハ訴訟物ノ價額ニ應シ左ノ區別

ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ  
訴訟物ノ價額金五圓マテ 二十錢

同 十圓マテ 三十錢

同 二十圓マテ 六十錢

同 五十圓マテ 一圓五十錢

同 七十五圓マテ 二圓二十錢

同 百圓マテ 三圓

同 二百五十圓マテ 六圓五十錢

同 五百圓マテ 十圓

同 七百五十圓マテ 十三圓

同 千圓マテ 十五圓

同 二千五百圓マテ 二十圓

同 五千圓マテ 二十五圓

同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ二圓ヲ加フ

訴訟物ノ價額ヲ算定スルニハ民事訴訟法第三條乃至第六條ノ規定ニ從フ

民事訴訟用印紙法

第三條 財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ其訴訟物ノ價額百圓ト看做シ印紙ヲ貼用ス可シ

財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ト其訴訟ニ由テ生スル財産權上ノ訴訟ト併合スルトキハ其多額ナル一方ノ訴訟物ノ價額ニ依リ印紙ヲ貼用ス可シ

第四條 本訴ト反訴ト其目的カ同一ノ訴訟物ナルトキハ反訴ノ訴狀ニ印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第五條 控訴狀ニハ第二條ノ規定ニ從ヒ其半額上告狀ニハ其全額ノ印紙ヲ加貼ス可シ

第六條 左ニ掲クル書類ニハ五十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第一 抗告

第二 故障

第三 證據調ヲ申立

第四 假差押及ヒ假處分ノ申請

第五 判決ノ送達アラシコトヲ求ムル申立

第六 執行力アル正本ヲ求ムル申立但此正本ノ數通ヲ求ムルトキハ其一通毎ニ五十錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

第七條 和解及ヒ督促手續ニ付キ民事訴訟法第三百八十一條第三項及ヒ第三百九十條ノ規定ニ依リ訴カ區裁判所ニ繫屬スルトキハ第二條第三條ノ規定ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

第八條 再審ヲ求ムルノ訴狀ニハ其訴ヲ爲ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第九條 原狀回復ノ申立ニハ其書面ヲ差出ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十條 答辯書其他前數條ニ掲ケサル申立及ヒ申請ニハ二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十一條 民事訴訟法第九十七條第一號ノ場合ノ外此法律ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ  
民事訴訟用印紙法  
二百九十七



サル民事訴訟ノ書類ハ其效ナキモノトス但印紙ヲ貼用セス又ハ貼用スルモ不足アルトキハ裁判所ハ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有效ナラシムルヲ得

第十二條 印紙ノ種類及ヒ貼用方ハ明治十七年第四號布達ニ依ル

第十三條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコトヲ許サス

第十四條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス

第十五條 前條ノ規定ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第十六條 第六條第十條乃至第十二條ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

●商事非訟事件印紙法

(明治二十三年八月十五日)  
法律第六十六號

朕商事非訟事件印紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

商事非訟事件印紙法

第一條 商法中登記ニ關ル場合ヲ除ク外非訟事件ニ付裁判所ノ命令其他ノ處分ヲ求ムル者ハ以下數條ノ手續ニ從ヒ其差出ス書類ニ民事訴訟用印紙ヲ貼用ス可シ但口述ヲ以テスル場合ニ於テハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第五條第六條第七條ノ場合ニ於テハ管財人ヨリ差出ス計算書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條 左ニ掲クルモノニ付テハ五十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一 抗告又ハ假差押ノ申立

二 債權者ヨリ爲ス破産宣告ノ申立

三 支拂猶豫ノ申立

第三條 左ニ掲クルモノニ付テハ二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

商事非訟事件印紙法

一 抗告ニ對スル答辯

二 裁判所ノ命令其他ノ處分ノ申立ニシテ本法ニ於テ特ニ規定セサル非訟事件ニ係ルモノ

第四條 破産手續ニ付テハ破産財團中ノ貸方金額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ但財團管理費用其他破産手續上ノ費用及ヒ財團ノ爲メニ負擔シタル債務並ニ別除ノ辨濟ニ供スル金額ハ貸方金額ヨリ之ヲ控除ス可キモノトス

財團ノ價額五圓マテ 四十錢

同 十圓マテ 六十錢

同 二十圓マテ 一圓二十錢

同 五十圓マテ 三圓

同 七十五圓マテ 四圓四十錢

同 百圓マテ 六圓

同 二百五十圓マテ 十三圓

同 五百圓マテ 二十圓

同 七百五十圓マテ 二十六圓

同 千圓マテ 三十圓

同 二千五百圓マテ 四十圓

同 五千圓マテ 五十圓

同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ四圓ヲ加フ

第五條 破産手續ニ付テハ財團ノ配當アル毎ニ其配當金額ノ割合ヲ以テ印紙價額ニ相當スル金額ヲ引去リ置キ終局計算ニ至リ配當金總高ノ割合ニ從ヒ相當印紙ヲ貼用ス可シ

第六條 協賛契約ニ依リ手續ヲ止メタルトキハ第四條ニ掲ケタル印紙ノ半額ヲ貼用ス可シ

第七條 破産手續再施ノ場合ニ於テハ破産手續開始ニ於ケル場合ト同一ノ印紙  
商事非訟事件印紙法

ヲ貼用ス可シ

第八條 本法ニ定ムル印紙代價ノ負擔ニ付テハ民事訴訟法第一編第二章第五節ノ規定ヲ準用ス

民事訴訟用印紙法ハ本法ノ規定ニ牴觸セサルモノニ限り之ヲ準用ス

●家資分散法

(明治二十三年八月二十日法律第六十九號)

朕家資分散法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

家資分散法

第一條 民事訴訟法ノ強制執行處分ニ因リ義務ヲ辨濟スル資力ナキ債務者ニ對シテハ管轄裁判所ハ職權ニ因リ又ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ家資分散者タルノ宣告ヲ爲ス可シ  
右ノ決定ハ口頭辯論ヲ要セスシテ之ヲ爲スコトヲ得

此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三條 第一條ノ宣告ハ裁判所及市町村ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ公告ス可シ

第四條 家資分散者ハ其宣告ヲ受ケタル日ヨリ選舉權及被選舉權ヲ失フ

家資分散者ノ復權ニ付テハ商法第五十五條以下ヲ準用ス

第五條 商法及本法施行以後ニ於テ從前ノ法律中身代限處分ヲ受ケタル者ニ對シ公權ノ喪失ヲ定メタル條項ハ破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ニ對シ效力ヲ有ス

家資分散法

條次ノ目次

第一章 總則  
 第一條 本法ノ目的及範圍  
 第二條 本法ニ依リテ裁判スル事件ノ種類  
 第三條 裁判ノ管轄  
 第四條 裁判ノ費用  
 第五條 裁判ノ執行  
 第六條 裁判ノ效力  
 第七條 裁判ノ救済  
 第八條 裁判ノ記録  
 第九條 裁判ノ公開  
 第十條 裁判ノ便宜

●人事訴訟手續法

(明治三十一年六月十五日法律十三號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル人事訴訟手續法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

人事訴訟手續法

第一章 婚姻事件及ヒ養子縁組事件ニ關スル手續

第一條 婚姻ノ無效若クハ取消、離婚又ハ夫婦ノ同居ヲ目的トスル訴ハ夫ガ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ

專屬ス但縁組事件ニ附帶シテ婚姻ノ取消又ハ離婚ノ請求ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス

前項ノ普通裁判籍ハ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所ニ依リ居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所ニ依リテ定マ

ル

最後ノ住所ナキトキ又ハ其住所ノ知レサルトキハ司法省令ヲ以テ指定シタル

人事訴訟手續法 婚姻事件及ヒ養子縁組事件ニ 關スル手續

三百五

地ヲ住所地トス

第二條 夫婦ノ一方カ提起スル婚姻ノ無効又ハ取消ノ訴ニ於テハ其配偶者ヲ以テ相手方トス

第三者カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ夫婦ヲ以テ相手方トシ夫婦ノ一方カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス

前二項ノ規定ニ依リテ相手方トスヘキ者カ死亡シタル後ハ檢事兼以テ相手方トス

檢事カ當事者ト爲リタル後相手方カ死亡シタルトキハ本案ノ訴訟手續受繼ノ爲メ裁判所ハ辯護士ヲ承繼人トシテ選定スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ辯護士ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其額ハ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三條 無能力者カ婚姻ノ無効若クハ取消、離婚又ハ同居ニ關スル訴訟行爲ヲ爲スニハ其法定代理人、保佐人又ハ夫ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

無能力者カ前項ノ訴訟行爲ヲ爲サントスルトキハ受訴裁判所ノ裁判長ハ申立

ニ因リ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任スルコトヲ要ス

無能力者カ前項ノ申立ヲ爲ササルトキハ雖モ受訴裁判所ノ裁判長ハ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任スヘキ旨ヲ命シ又ハ職權ヲ以テ其選任ヲ爲スコトヲ得

前條第五項ノ規定ハ受訴裁判所ノ裁判長カ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四條 夫婦ノ一方カ禁治産者ナルトキハ其後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

禁治産者ノ配偶者カ其後見人ナルトキハ後見監督人ハ親族會ノ同意ヲ得テ前項ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第五條 婚姻事件ニ付テハ檢事ハ辯論ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ要ス

檢事ハ受命判事又ハ受託判事ノ審問ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ得

事件及ヒ期日ハ檢事ニ之ヲ通知シ檢事カ立會ヒタル場合ニ於テハ其氏名及ヒ人事訴訟手續法 婚姻事件及ヒ養子縁組事件ニ 三百七

關スル手續

三百六

第六條 檢事ハ當事者ト爲ラサルトキト雖モ婚姻ヲ維持スル爲メ事實及ヒ證據  
方法ヲ提出スルコトヲ得

第七條 婚姻ノ無効ノ訴、其取消ノ訴、離婚ノ訴及ヒ同居ノ訴ハ之ヲ併合シ又  
ハ反訴トシテ之ヲ提起スルコトヲ得

他ノ訴ハ之ヲ前項ノ訴ニ併合シ又ハ其反訴トシテ提起スルコトヲ得ス但扶養  
ノ請求、訴ノ原因タル事實ニ因リテ生シタル損害賠償ノ請求及ヒ民法ノ規定

ニ依リ婚姻事件ニ附帶シテ爲スコトヲ得ル縁組ノ取消又ハ離縁ノ請求ハ此限  
ニ在ラス

第八條 婚姻事件ニ付テハ第一審又ハ控訴審ニ於ケル辯論ノ終結ニ至ルマテ訴  
若クハ其事由ヲ變更シ之ヲ併合シ又ハ反訴ヲ提起スルコトヲ得

第九條 婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ棄却ノ言渡ヲ受ケタル原告  
ハ訴若クハ其事由ノ變更又ハ併合ニ依リ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實ニ基

キテ獨立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス  
被告ハ反訴ノ事由トシテ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實ニ基キテ獨立ノ訴ヲ  
提起スルコトヲ得ス

第十條 民事訴訟法第一百一條第二項 第三項及ヒ第三百二十五條乃至第三百

四十一條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス同法第二百二十九條中請求ノ認諾  
ニ關スル規定亦同シ

裁判上ノ自白ニ關スル法則ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス  
民事訴訟法第二百十條ノ規定ハ婚姻事件ノ控訴審ニ之ヲ適用セス

第十一條 婚姻事件ノ被告カ第一審ニ於ケル最初ノ辯論ノ期日ニ出頭セサルト  
キハ更ニ其期日ヲ定ムルコトヲ要ス但被告カ公示送達ニ依リテ呼出ヲ受ケタ

ル場合ハ此限ニ在ラス  
前項ノ場合ヲ除ク外被告カ期日ニ出頭セサルトキト雖モ辯論ヲ命シ且判決ヲ

爲スコトヲ得此場合ニ於テハ民事訴訟法第二百四十八條及ヒ第四百二十九條

人事訴訟手續法 婚姻事件及ヒ養子縁組事件ニ 三百九  
關スル手續

前二項ノ規定ハ反訴ノ被告ニ之ヲ適用ス

第十三條 裁判所ハ婚姻事件ニ付キ當事者ニ自身出頭ヲ命シ當事者又ハ檢事力

提出シタル事實ニ付キ訊問ヲ爲スコトヲ得

當事者力出頭スルコト能ハサルトキ又ハ遠隔ノ地ニ在ルコトキハ受命判事又ハ

受託判事ヲシテ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得

出頭セサル當事者ニハ出頭セサル證人ニ關スル民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第十三條 和諧ノ調フヘキ見込アルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ一回ニ限り一年

ヲ超エサル期間離婚ノ訴ニ關スル手續ヲ中止スルコトヲ得

第十四條 裁判所ハ婚姻ヲ維持スル爲メ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者力提

出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得但其實實及ヒ證據調ノ結果ニ付キ當事者ヲ

訊問スヘシ

第十五條 婚姻ノ無效若クハ取消又ハ離婚ヲ言渡シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ

當事者ニ送達スヘシ

第十六條 扶養若クハ同居ノ義務、子ノ監護其他ノ假處分ニ付テハ民事訴訟法

第七百五十六條乃至第七百六十三條ノ規定ヲ準用ス

第十七條 檢事力敗訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫ノ負擔トス

第十八條 婚姻ノ無效若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ言渡シタル判決ハ第三者

ニ對シテモ其效力ヲ有ス

民法第七百六十六條ノ規定ニ違反シタルコトヲ理由トシテ婚姻ヲ取消ヲ請求

シタル場合ニ於テ其訴ヲ棄却シタル判決ハ當事者ノ前配偶者ニ對シテハ其者

力訴訟ニ參加シタルトキニ限り其效力ヲ有ス

第十九條 檢事力提起スルコトヲ得ル婚姻事件ノ訴ニ限リ後四條ノ規定ヲ適用

ス

第二十條 檢事力訴ヲ提起スルコトキハ夫婦ヲ以テ相手方トス

第二十一條 訴ノ變更若クハ併合又ハ反訴ノ提起ハ檢事力提起スルコトヲ得ル

人事訴訟手續法 婚姻事件及ヒ養子縁組事件ニ 三百十一

關スル手續

關スル手續

關スル手續

訴ナルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得  
訴ノ事由ノ變更又ハ併合ハ檢事カ提出スルコトヲ得ル事由ナルトキニ限り之  
ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 檢事ハ他ノ者カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テモ申立ヲ爲シテ訴訟手  
續ヲ追行シ又ハ上訴ヲ爲スコトヲ得但夫婦ノ一方カ死亡シタル後ハ此限ニ在  
ラス

第二十三條 檢事カ上訴ヲ爲ストキハ前審ノ當事者ノ全員ヲ以テ相手方トス  
當事者ノ一人カ上訴ヲ爲ストキハ前審ノ他ノ當事者及ヒ當事者タリシ檢事ヲ  
以テ相手方トス

第二十四條 養子縁組ノ無效若クハ取消又ハ離縁ヲ目的トスル訴ハ養親カ普通  
裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專  
屬ス但婚姻事件ニ附帶シテ縁組ノ取消又ハ離縁ノ請求ヲ爲ス場合ハ此限ニ在  
ラス

第二十五條 養親カ禁治産者ナルトキハ第四條第一項ノ規定ヲ準用ス

養子カ禁治産者ナルトキハ實方ノ直系尊屬又ハ實家ノ戸主ハ離縁ノ訴ヲ提起  
スルコトヲ得

第二十六條 第一條第二項、第三項、第二條、第三條及ヒ第五條乃至第十八條  
ノ規定ハ養子縁組事件ニ之ヲ準用ス

第二章 親子關係事件、相續人廢除事件及ヒ隱居事件ニ關スル手續

第二十七條 子ヲ否認、認知、其認知ノ無效若クハ取消又ハ民法第八百二十一  
條ノ規定ニ依リ父ヲ定ムルコトヲ目的トスル訴ハ子が普通裁判籍ヲ有スル地  
又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第二十八條 夫カ禁治産者ナルトキハ其後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ否認ノ訴  
ヲ提起スルコトヲ得

第二十九條 夫カ子ノ出生前又ハ否認ノ訴ヲ提起セスシテ民法第八百二十五條  
ノ期間内ニ死亡シタルトキハ其子ヲ爲メニ相續權ヲ害セラルヘキ者其他夫ノ

人事訴訟手續法 親子關係事件、相續人廢除事件 及ヒ隱居事件ニ關スル手續 三百十三



三親等内ノ血族ニ限り否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テハ否認ノ訴ハ夫ノ死亡ノ日ヨリ一年内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

夫カ否認ノ訴ヲ提起シタル後死亡シタルトキハ第二項ニ掲ケタル者ニ於テ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ得

第三十條 父ヲ定ムルコトヲ目的トスル訴ハ子、母、母ノ配偶者又ハ其前配偶者ヨリ之ヲ提起スルコトヲ得

母ノ配偶者及ヒ其前配偶者ハ互ニ其相手方ト爲ルコトヲ得

子又ハ母カ提起スル第一項ノ訴ニ於テハ母ノ配偶者及ヒ其前配偶者ヲ以テ相手方トシ其一人カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス

第三十一條 親權若クハ財産管理權ノ喪失又ハ失權ノ取消ヲ目的トスル訴ハ親權ヲ行フ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十二條 失權ノ取消ヲ目的トスル訴ニ付テハ現ニ親權若クハ管理權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ相手方トス

第三十三條 推定家督相續人若クハ推定遺産相續人ノ廢除又ハ其廢除ヲ取消ヲ目的トスル訴ハ被相續人カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十四條 廢除ノ取消ヲ目的トスル訴ニ付テハ廢除ニ因リテ推定家督相續人又ハ推定遺産相續人ト爲リタル者ヲ以テ相手方トス

第三十五條 隱居ノ無効又ハ取消ヲ目的トスル訴ハ隱居者カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十六條 隱居者カ提起スル隱居ノ無効又ハ取消ノ訴ニ於テハ家督相續人ヲ以テ相手方トス

家督相續人カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ隱居者ヲ以テ相手方トス

隱居者及ヒ家督相續人ニ非サル者カ提起スル第一項ノ訴ニ於テハ隱居者及ヒ家督相續人ヲ以テ相手方トシ其一人カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方

人事訴訟手續法 親子關係事件、相續人廢除事件 三百十五  
及ヒ隱居事件ニ關スル手續

第三十七條 檢事ハ本章ニ掲ケタル訴ニ付キ事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

裁判所ハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者カ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得但其實實及ヒ證據調ノ結果ニ付キ當事者ヲ訊問スヘシ

第三十八條 本章ニ掲ケタル訴ニ付キ原告ノ申立ニ相當スル言渡ヲ爲シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

第三十九條 第一條第二項、第三項、第三條、第五條、第七條第二項、第十條乃至第十二條及ヒ第十六條乃至第十八條ノ規定ハ本章ニ掲ケタル訴ニ之ヲ準用ス

第七條第一項、第八條及ヒ第九條ノ規定ハ第三十一條、第三十三條及ヒ第三十五條ニ掲ケタル訴、子ノ認知ノ無効ノ訴及ヒ其取消ノ訴ニ之ヲ準用ス

第二十一條乃至第二十三條ノ規定ハ親權又ハ財産管理權ノ喪失ヲ目的トスル訴及ヒ隱居ノ取消ノ訴ニ之ヲ準用ス

第二條第三項乃至第五項ノ規定ハ第三十條第二項、第三項、第三十四條及ヒ第三十六條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三章 禁治産及ヒ準禁治産ニ關スル手續  
第四十條 禁治産ノ申立ハ禁治産ノ宣告ヲ受ケヘキ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一條第二項ノ規定ハ前項ノ裁判籍ニ之ヲ準用ス

第四十一條 妻カ夫ノ禁治産ノ申立ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要セ

第四十二條 申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

申立ニハ其原因タル事實及ヒ證據方法ヲ表示スヘシ

第四十三條 裁判所ハ禁治産ノ手續ノ開始前診斷書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第四十四條 禁治産ノ手續ハ之ヲ公行セス

人事訴訟手續法 禁治産及ヒ準禁治産ニ關スル 三百十七

第四百十五條 檢事ハ他ノ者カ禁治産ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テモ申立ヲ爲シ

テ其手續ヲ追行シ且期日ニ立會ヒテ意見ヲ述ブルコトヲ得

事件及ヒ期日ハ檢事ニ之ヲ通知シ檢事カ立會ヒタル場合ニ於テハ其氏名及ヒ

申立ヲ調書ニ記載スヘシ

第四十六條 裁判所ハ申立ニ表示シタル事實及ヒ證據方法ヲ斟酌シ職權ヲ以テ

心神ノ狀況ニ關スル探知及ヒ必要ト認ムル證據調ヲ爲スヘシ

民事訴訟法第二編第一章第六節及ヒ第七節ノ規定ハ證人及ヒ鑑定人ノ訊問ニ

之ヲ準用ス

第四十七條 裁判所ハ鑑定人ノ立會ヲ以テ禁治産ノ宣告ヲ受クベキ者ヲ訊問ス

ヘシ但其訊問ヲ爲シ難キトキ又ハ其者ノ健康ニ害アルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ訊問ハ受託判事ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十八條 禁治産ノ宣告ハ心神ノ狀況ニ付キ鑑定人ヲ訊問シタル後ニ非サレ

ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四十九條 禁治産ノ申立ニ關スル手續ノ費用ハ禁治産ノ宣告アリタル場合ニ

於テハ禁治産者ノ負擔トス

前項ノ場合ヲ除ク外手續ノ費用ハ申立人ノ負擔トス但檢事カ申立ヲ爲シタル

場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第五十條 裁判所ハ禁治産ノ宣告ヲ爲スニ至ルマテ其宣告ヲ受クベキ者ノ監護

又ハ其財産ノ保存ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得禁治産ノ宣告ヲ爲シ

タル後其處分ヲ必要ト認ムルトキ亦同シ

第五十一條 禁治産ノ申立ヲ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人及ヒ檢事

ニ送達スヘシ

禁治産ヲ宣告シタル決定ハ職權ヲ以テ申立人、檢事及ヒ禁治産者ノ法定代理

人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルベキ者ニ之ヲ送達スヘシ

第五十二條 禁治産ヲ宣告シタル決定ハ禁治産者ノ法定代理人又ハ法律ニ依リ

後見人ト爲ルベキ者カ其送達ヲ受ケタル日ヨリ效力ヲ生ス

人事訴訟手續法 禁治産及ヒ準禁治産ニ關スル 三百十九

手續

法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者ナキ場合ニ於テハ檢事カ送達ヲ受ケタル日ヨリ效力ヲ生ス

第五十三條 裁判所ハ禁治産ヲ宣告シタル決定ヲ送達シタルトキハ直チニ之ヲ公告スヘシ

第五十四條 申立人及ヒ檢事ハ禁治産ノ申立ヲ却下シタル決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四十三條乃至第四十六條ノ規定ハ抗告裁判所ノ手續ニ之ヲ準用ス

第五十五條 民法ノ規定ニ依リテ禁治産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル者ハ其宣告ニ對シ一個月内ニ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

前項ノ期間ハ禁治産者ニ對シテハ禁治産ノ宣告ヲ知リタル日ヨリ之ヲ起算シ其他ノ者ニ對シテハ決定カ效力ヲ生シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第五十六條 前條第一項ノ訴ハ禁治産ノ宣告ヲ爲シタル區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第五十七條 第五十五條第一項ノ訴ニ於テハ禁治産ノ申立人ヲ以テ相手方トス

禁治産ノ申立人カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トシ檢事カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ禁治産者ノ法定代理人ヲ以テ相手方トス

第五十八條 第五十五條第一項ノ訴ニハ他ノ訴ヲ併合シ又ハ之ニ對シテ反訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十九條 第二條第四項、第五項、第三條、第五條、第十條、第十一條、第十七條、第四十七條及ヒ第四十八條ノ規定ハ第五十五條第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第六十條 裁判所カ第五十五條第一項ノ訴ヲ理由アリト認ムルトキハ禁治産ヲ宣告シタル決定ヲ取消スヘシ此場合ニ於テハ判決ノ確定ニ至ルマテ禁治産者ノ監護又ハ其財産ノ保存ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第六十一條 禁治産ノ宣告ノ取消前ニ於テ後見人カ爲シタル行爲ハ其效力ヲ變人事訴訟手續法 禁治産及ヒ準禁治産ニ關スル 三百二十一 手續

セヌ

禁治産ノ宣告ノ取消前ニ於テ禁治産者カ爲シタル行爲ハ禁治産ヲ宣告シタル決定ニ基キテ之ヲ取消スコトヲ得ス

第六十二條 禁治産ノ宣告ヲ取消シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

前項ノ判決カ確定シタルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ公告スヘシ

第六十三條 禁治産ノ原因止ミタルコトヲ理由トシテ其宣告ノ取消ヲ求ムル申立ハ禁治産者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一條第二項及ヒ第四十二條乃至第四十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十四條 前條第一項ノ申立ニ關スル手續ノ費用ハ禁治産ノ宣告ノ取消アリタル場合ニ於テハ禁治産者ノ負擔トス

前項ノ場合ヲ除ク外手續ノ費用ハ申立人ノ負擔トス但檢察カ申立ヲ爲シタル

場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第六十五條 禁治産ノ取消ノ申立ヲ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人ニ送達スヘシ

禁治産ヲ取消シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人、檢察及ヒ禁治産者ニ送達スヘシ第六十二條第二項ノ規定ハ此決定ニ之ヲ準用ス

檢察ハ前項ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第六十六條 禁治産ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ其申立ヲ却下シタル決定ニ對シ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第五十六條乃至第六十條、第六十一條第一項及ヒ第六十二條ノ規定ハ前項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第六十七條 準禁治産ニ關スル手續ニハ本章ノ規定ヲ準用ス

第四十三條、第四十七條及ヒ第四十八條ノ規定ハ浪費者ニ之ヲ適用セス

入事訴訟手續法 禁治産及ヒ準禁治産ニ關スル 三百二十三  
手續

第三條第二項乃至第四項ノ規定ハ準禁治産者ニ之ヲ適用セス

第六十八條 準禁治産ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ民法第十二條第二項ノ規定ニ依リテ爲シタル宣告ノ取消又ハ變更ヲ申立ツルコトヲ得此場合ニ於テハ準禁治産ノ取消ニ關スル規定ヲ準用ス

第六十九條 本章ノ規定ニ依リテ爲スヘキ公告ノ方法ハ司法大臣之ヲ定ム

第四章 失踪ニ關スル手續

第七十條 失踪ノ宣告及ヒ其宣告ノ取消ニハ以下數條ニ定メタルモノノ外民事訴訟法第七百六十五條乃至第七百七十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十一條 失踪ノ宣告又ハ其取消ノ申立ハ不在者ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

七十二條 公示催告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 不在者ハ公示催告期日マテニ其生存ノ届出ヲ爲スヘク其届出ヲ爲サザ

ルトキハ失踪ノ宣告ヲ受クヘキコト

二 不在者ノ生死ヲ知ル者ハ公示催告期日マテニ其届出ヲ爲スヘキコト  
公示催告期間ハ六个月以上ナルコトヲ要ス

第七十三條 不在者ノ出生後百年以上ヲ經過シタル場合ニ於テハ公示催告ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ公示催告期間ハ其公告ノ日ヨリ二个月以上ナルヲ以テ足ル

第七十四條 檢事ハ失踪ノ宣告又ハ其取消ノ申立ニ付キ意見ヲ述ヘ且審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立會フコトヲ得

第四十二條第二項、第四十五條第二項及ヒ第四十六條ノ規定ハ本章ノ手續ニ之ヲ準用ス

第七十五條 各利害關係人ハ共同ノ申立人トシテ手續ニ加ハリ又ハ申立人ニ代ハリテ手續ヲ續行スルコトヲ得

人事訴訟手續法 失踪ニ關スル手續

第七十六條 不在者カ其生存ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テ申立人カ其事實ヲ認メサルトキハ判決ノ確定ニ至ルマテ公示催告手續ヲ中止スヘシ

第七十七條 失踪ノ宣告ニ關スル手續ノ費用ハ失踪ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續財産ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ申立人ノ負擔トス

第七十八條 失踪ノ宣告ノ判決ニ對シテ不服ヲ申立ツル訴ハ利害關係人ヨリ之ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ訴ニ付テハ失踪ノ宣告ノ申立人カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トス此場合ニ於テハ第二條第四項及ヒ第五項ノ規定ヲ準用ス

第七十九條 數個ノ不服申立ノ訴アルトキハ裁判所ハ之ヲ併合スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第五十條ノ規定ヲ適用ス

第八十條 民法第三十二條ニ依ル失踪ノ宣告ノ取消ハ其判決ニ對スル不服申立ノ訴ヲ以テ之ヲ請求スルコトヲ得但失踪者ノ生存スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ民事訴訟法第七百七十五條ノ規定ヲ適用セス

附則

第八十一條 本法ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八十二條 明治二十三年法律第百四號其他従前ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ牴觸シ又ハ重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第八十三條 本法施行前ニ提起シタル訴ニシテ其判決確定セサルモノニハ本法ノ規定ヲ適用ス

●人事訴訟手續法第一條第三項ノ住所地指定

(明治三十一年七月八日) 司法省令第八號

人事訴訟手續法第一條第三項ノ場合ニ於テハ東京市ヲ以テ住所地トス

●人事訴訟手續法第二章ニ依リ爲スヘキ公告方法

(明治三十一年七月八日) 司法省令第九號

人事訴訟手續法第一條第三項ノ住所地指定 訴訟手續法第三章ニ依リ爲スヘキ公告方法

人事 三百二十七

人事訴訟手續法第三章ノ規定ニ依リテ爲スヘキ公告ハ裁判ノ要旨ヲ宣報及ヒ法  
入ノ登記ノ公告ニ付キ選定シタル新聞紙上ニ少クモ一回掲載シテ之ヲ爲スヘシ  
但上級裁判所ノ裁判ノ公告ハ其所在地ノ區裁判所カ選定シタル新聞紙ニ掲載シ  
テ之ヲ爲スヘシ  
前項ノ新聞紙ナキトキハ新聞紙上ノ公告ニ代ヘ裁判所ノ揭示場ニ揭示シテ之  
爲スヘシ

● 非訟事件手續法

(明治三十一年六月十五日  
法律 第十 四 號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル非訟事件手續法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
非訟事件手續法

第一編 總則

第一條 裁判所ノ管轄ニ屬スル非訟事件ニ付テハ本法其他ノ法令ニ別段ノ定メ  
ル場合ヲ除ク外本編ノ規定ヲ適用ス

第二條 裁判所ノ土地ノ管轄カ住所ニ依リテ定マル場合ニ於テ日本ニ住所ナキ  
トキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所ト  
ス

居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁  
判所トス

最後ノ住所ナキトキ又ハ其住所ノ知レサルトキハ財産ノ所在地又ハ司法大臣

非訟事件手續法 總則



ノ指定シタル地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス相續開始地ノ裁判所カ管轄裁判所ナル場合ニ於テ相續カ外國ニ於テ開始シタルトキ亦同シ

第三條 數個ノ管轄裁判所アル場合ニ於テハ最初事件ノ申立ヲ受ケタル裁判所其事件ヲ管轄ス

第四條 管轄裁判所ノ指定ハ裁判所構成法第十條第一號ニ掲ケタル場合ノ外數個ノ裁判所ノ土地ノ管轄ニ付キ疑アルトキ之ヲ爲ス

民事訴訟法第二十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條 裁判所職員ノ除斥ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

第六條 事件ノ關係人ハ訴訟能力者ヲシテ代理セシムルコトヲ得但自身出頭ヲ命セラレタルトキハ此限ニ在ラス

裁判所ハ辯護士ニ非スシテ代理ヲ營業トスル者ニ退斥ヲ命スルコトヲ得此命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七條 民事訴訟法第六十四條ノ規定ハ前條第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス但裁判所ハ職權ヲ以テ私署證書ニ認證ヲ受クヘキ旨ヲ命スルコトヲ得此命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第八條 申立及ヒ陳述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法第三十五條ノ規定ハ口頭ノ申立及ヒ陳述ニ之ヲ準用ス

第九條 申立ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ代理人之ニ署名、捺印スヘシ

一 申立人ノ氏名、住所

二 代理人ニ依リテ申立ヲ爲ストキハ其氏名、住所

三 申立ノ趣旨及ヒ其原因タル事實

四 年月日

五 裁判所ノ表示

證據書類アルトキハ其原本又ハ謄本ヲ添附スヘシ

第十條 期日、期間、説明ノ方法、入證及ヒ鑑定ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ

非訟事件手續法 總則

非訟事件ニ之ヲ準用ス

第十一條 裁判所ハ職權ヲ以テ事實ノ探知及ヒ必要ト認ムル證據調ヲ爲スヘシ

第十二條 事實ノ探知、呼出、告知及ヒ裁判ノ執行ニ關スル行爲ハ之ヲ囑託スルコトヲ得

第十三條 審問ハ之ヲ公行セス但裁判所ハ相當ト認ムル者ニ傍聽ヲ許スコトヲ得

第十四條 證人又ハ鑑定人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ラシメ其他ノ審問ニ付テハ必要ト認ムル場合ニ限り之ヲ作ラシムヘシ

第十五條 檢事ハ事件ニ付キ意見ヲ述ヘ審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立會フコトヲ得

事件及ヒ審問期日ハ檢事ニ之ヲ通知スヘシ

第十六條 裁判所其他ノ官廳、檢事及ヒ公吏ハ其職務上檢事ノ請求ニ因リテ裁

判ヲ爲スヘキ場合カ生シタルコトヲ知りタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ通知スヘシ

第十七條 裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

裁判ノ原本ニハ判事署名、捺印スヘシ但申立書又ハ調書ニ裁判ヲ記載シ判事之ニ署名、捺印シテ原本ニ代ワルコトヲ得

裁判ノ正本及ヒ謄本ニハ書記署名、捺印シ且正本ニハ裁判所ノ印ヲ押捺スヘシ

第十八條 裁判ハ之ヲ受クル者ニ告知スルニ因リテ其效力ヲ生ス

裁判ノ告知ハ裁判所ノ相當ト認ムル方法ニ依リテ之ヲ爲ス  
告知ノ方法、場所及ヒ年月日ハ之ヲ裁判ノ原本ニ記入スヘシ

第十九條 裁判所ハ裁判ヲ爲シタル後其裁判ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ハ申立ニ

非訟事件手續法 總則

因ルニ非サレハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得ス

即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得ス

第二十條 裁判ニ因リテ權利ヲ害セラレタリトスル者ハ其裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ申立人ニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 抗告ハ特ニ定メタル場合ヲ除ク外執行停止ノ效力ヲ有セス

第二十二條 即時抗告ノ期間ハ裁判ノ告知ノ日ヨリ之ヲ起算ス

民事訴訟法第七十四條乃至第七十六條ノ規定ハ即時抗告ノ期間ヲ懈怠シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 抗告裁判所ノ裁判ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス

第二十四條 抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理

由トスルトキニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法第四百三十五條、第四百三十六條及ヒ第四百五十三條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第二十五條 抗告ニハ前五條ニ定メタルモノヲ除ク外民事訴訟法ノ抗告ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十六條 裁判前ノ手續及ヒ裁判ノ告知ノ費用ハ特ニ其負擔者ヲ定メタル場合ヲ除ク外事件ノ申立人ノ負擔トス但檢察力申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第二十七條 裁判所ハ前條ノ費用ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ必要ト認ムルトキハ其額ヲ確定シテ事件ノ裁判ト共ニ之ヲ爲スヘシ

第二十八條 裁判所ハ特別ノ事情アルトキハ本法ノ規定ニ依リテ費用ヲ負擔スヘキ者ニ非サル關係人ニ費用ノ全部又ハ一部ノ負擔ヲ命スルコトヲ得

第二十九條 民事訴訟法第八十條第一項ノ規定ハ共同ニテ費用ヲ負擔スヘキ者

非訟事件手續法 總則

數人アル場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 費用ノ裁判ニ對シテハ其負擔ヲ命セラレタル者ニ限り不服ヲ申立ツルコトヲ得

民事訴訟法第八十二條第一項ノ規定ハ前項ノ申立ニ之ヲ準用ス

第三十一條 費用ノ債權者ハ費用ノ裁判ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法第六編ノ規定ハ前項ノ強制執行ニ之ヲ準用ス但執行ヲ爲ス前裁判ヲ送達スルコトヲ要セス

費用ノ裁判ニ對スル抗告アリタルトキハ民事訴訟法第五百條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 職權ヲ以テ爲ス探知、證據調、呼出、告知其他必要ナル處分ノ費用ハ國庫ニ於テ之ヲ立替フヘシ

第三十三條 本編ニ於ケル申立トハ申立、申請及ヒ申述ヲ謂フ

第二編 民事非訟事件

第一章 法人ニ關スル事件

第三十四條 民法第四十條ニ定メタル事件ハ法人ノ設立者カ死亡ノ時ニ有シタル住所ノ區裁判所ノ管轄トス

法人ノ設立者カ日本ニ住所ヲ有セザリシトキ又ハ其住所カ知レサルトキハ其死亡ノ時ノ居所地又ハ法人設立地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十五條 假理事又ハ特別代理人ノ選任ハ法人ノ主タル事務所所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

法人ノ解散及ヒ清算ノ監督ハ其主タル事務所所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十六條 裁判所ハ特ニ選任シタル者ヲシテ法人ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十七條 第三百三十六條乃至第三百三十八條及ヒ第七十五條乃至第七十七條ノ規定ハ法人ノ清算人ニ之ヲ準用ス(三十二年法律第五十一號ヲ以テ改正)

非訟事件手續法 民事非訟事件 法人ニ關スル事件 三百三十七

第三十八條 不在者ノ財産ノ管理ニ關スル事件ハ其住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十九條 裁判所ハ管理人ヲ選任シ又ハ改任スヘキ場合ニ於テハ利害關係人ノ意見ヲ聽クコトヲ得

第四十條 裁判所ハ何時ニテモ其選任シタル管理人ヲ改任スルコトヲ得此裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

管理人ハ其任務ヲ辭セントスルトキハ裁判所ニ其旨ヲ届出ツヘシ此場合ニ於テハ裁判所ハ更ニ管理人ヲ選任スヘシ

第四十一條 裁判所ハ其選任シタル管理人ニ財産ノ狀況ヲ報告シ且管理ノ計算ヲ爲スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得

民法第二十七條第二項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ不在者ヲ置キタル管理人ニモ前項ノ手續ヲ命スルコトヲ得

前二項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四十二條 利害關係人ハ前條ノ報告及ヒ計算ニ關スル書類ノ閲覧ヲ申請シ又ハ手数料ヲ納付シテ其謄本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

檢事ハ前項ノ書類ヲ閲覧スルコトヲ得

第四十三條 民法第六百四十四條、第六百四十六條、第六百四十七條及ヒ第六百五十條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル管理人ニ之ヲ準用ス

第四十四條 裁判所ハ管理人ヲシテ擔保ヲ供セシメタル後其増減、變更又ハ免除ヲ命スルコトヲ得

第四十五條 裁判所ハ管理人ノ不動産又ハ船舶ノ上ニ抵當權ヲ設定スヘキコトヲ命シタルトキハ其設定ノ登記ヲ囑託スルコトヲ得

前項ノ囑託ニハ抵當權ノ設定ヲ命シタル裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ  
前二項ノ規定ハ設定シタル抵當權ノ變更又ハ消滅ノ登記ニ之ヲ準用ス

第四十六條 裁判所カ財産ノ封印ヲ命シタル場合ニ於テハ管轄區裁判所之ヲ爲  
非訟事件手續法 民事非訟事件 財産ノ管理ニ關スル事件 三百二十九

利害關係人、管理人及ヒ檢事ハ封印ノ手續ニ立會フコトヲ得

第四十七條 左ニ掲ケタル物ニハ封印ヲ爲スヘカラス

一 日用品

二 封印ヲ爲スニ適セサル物

三 第三者ノ占有ニ屬スル物但其提出ヲ拒マサルトキハ此限ニ在ラス

第四十八條 封印ニハ判事ノ職印ヲ用ユヘシ

民事訴訟法第五百三十六條ノ規定ハ封印ノ手續ニ之ヲ準用ス

第四十九條 裁判所ハ封印ヲ爲シタルトキハ財産ノ保管者ヲ選任スヘシ

第四十條 民法第六百五十八條第一項、第六百五十九條乃至第六百六十一條

及ヒ第六百六十四條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル保管者ニ之ヲ準用ス但民法

第六百六十條ノ通知ハ之ヲ檢事ニ爲スコトヲ要ス

第五十條 封印ヲ爲シタルトキハ書記ハ直チニ調書ヲ作ルヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人之ニ署名、捺印スヘシ

一 封印ヲ命シタル裁判ノ表示

二 封印ノ手續ヲ爲シタル場所、年月日及ヒ其事由

三 申立人ノ氏名、住所

四 封印ヲ爲シタル物件、家屋又ハ倉庫

五 封印ヲ爲ササリシ物件ノ概略及ヒ其事由

調書ハ二通ヲ作り其一通ハ之ヲ裁判所ニ保存シ其一通ハ之ヲ保管者ニ交付シ  
テ受領證ヲ取置クヘシ

第五十一條 裁判所ハ利害關係人、管理人又ハ檢事ノ請求ニ因リ民法第二十五

條第二項及ヒ本法第五十九條以外ノ場合ニ於テモ封印ノ除去ヲ命スルコトヲ

得

第四十六條、第五十條第一項及ヒ民事訴訟法第五百三十六條ノ規定ハ封印ノ

除去ニ之ヲ準用ス

非訟事件手續法 民事非訟事件 財産ノ管理ニ關 三四四十二  
スル事件

保管者ハ封印ノ除去ニ立會フコトヲ得

第五十二條 裁判所ハ豫メ封印ヲ除去スヘキ期日ヲ定メ申立人、利害關係人、保管者、管理人及ヒ檢事ニ之ヲ告知スヘシ

利害關係人、管理人及ヒ檢事ハ前項ノ期日前ニ裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得但民法第二十五條第二項及ヒ本法第五十九條ノ場合ハ此限ニ在ラズ

異議ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條 異議ノ申立アリタルトキハ其申立ノ取下又ハ却下ノ後ニ非サルハ封印ヲ除去スルコトヲ得ス

封印ヲ除去シタルトキハ直チニ書記又ハ公證人ヲシテ財産ノ目錄ヲ調製セシムヘシ但民法第二十五條第二項及ヒ本法第五十九條ノ場合ニ於テ立會人カ之ヲ調製セサルコトニ同意シタルトキハ此限ニ在ラズ

第五十四條 封印ノ除去ノ調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人ニ署名、捺印スヘシ

- 一 封印ノ除去ヲ命シタル裁判ノ表示
- 二 封印ノ除去ヲ爲シタル場所、年月日及ヒ其事由
- 三 申立人ノ氏名、住所
- 四 異議ノ申立ナカリシコト又ハ其申立ノ取下若クハ却下アリタルコト
- 五 財産ノ目錄ヲ調製セシメ又ハ之ヲ調製セシメサリシコト
- 六 封印ノ狀況及ヒ異狀アルトキハ其事由

調書ハ裁判所ニ之ヲ保存スヘシ

第五十五條 管理人カ調製スヘキ財産ノ目錄ニハ左ノ事項ヲ記載シ管理人及ヒ立會人ニ署名、捺印スヘシ

- 一 調製ノ場所、年月日及ヒ其事由
- 二 申立人ノ氏名、住所
- 三 不動産ノ表示
- 四 動産ノ種類及ヒ數量

非訟事件手續法 民事非訟事件 財産ノ管理ニ關 三百四十三

スル事件

五 債權及ヒ債務ノ表示

六 帳簿、證書其他ノ書類

財産ノ目録ハ二通ヲ調製シ其一通ハ管理人ノヲ保管シ其一通ハ之ヲ裁判所ニ提出スヘシ第四十六條第二項ノ規定ハ財産ノ目録ノ調製ニ之ヲ準用ス

第五十六條 民法第二十七條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テ裁判所ハ公證人ヲ

シテ財産ノ目録ヲ調製セシムヘキ旨ヲ管理人ニ命スルコトヲ得管理人カ調製シタル目録ヲ不充分ト認メタルトキ亦同シ

前項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

前條ノ規定ハ本條第一項又ハ第五十三條第三項ノ規定ニ依リテ書記又ハ公證人カ財産ノ目録ヲ調製スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條 利害關係人ハ財産ノ目録ノ閱覽ヲ申請シ又ハ手数料ヲ納付シテ其謄本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

檢事ハ財産ノ目録ヲ閱覽スルコトヲ得

第五十八條 裁判所ハ不在者ノ財産ヲ賣却セシムヘキ場合ニ於テハ競賣法ノ規定ニ依リテ之ヲ賣却スヘキコトヲ命スヘシ

第五十九條 本人カ自ラ其財産ヲ管理スルコトヲ得ルニ至リタルトキ又ハ其死亡カ分明ト爲リ若クハ失踪ノ宣告アリタルトキハ裁判所ハ本人、利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其命シタル處分ヲ取消スヘシ

第六十條 利害關係人ハ不在者ノ財産ノ管理若クハ保存ニ付キ處分ヲ命シ、其處分ヲ取消シ又ハ管理人ニ其權限ヲ超ユル行爲ヲ爲スコトヲ許可シタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

不在者カ置キタル管理人ハ其改任ヲ命シタル裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ管理人カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第六十一條 裁判所カ職權ヲ以テ裁判ヲ爲シ又ハ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ裁判前ノ手續及ヒ裁判ノ告知ノ費用ハ不在者ノ財産ノ負擔トス裁判所ノ命シタル處分ニ付キ必要ナル費用亦同シ

非訟事件手續法 民事非訟事件 財産ノ管理ニ關 三百四十五  
スル事件



第六十二條 裁判所カ抗告人ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ハ不在者ノ財産ノ負擔トス

第六十三條 民法第八百九十二條第二項乃至第四項ノ財産ノ管理ニ關スル事件ハ子ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三者カ數人ノ子ニ財産ヲ與ヘタル場合ニ於テ其住所カ異ナルトキハ年少ノ子ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第六十四條 第三者カ被後見人ニ與ヘタル財産ノ管理ニ關スル事件ハ被後見人ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第六十五條 民法第千二十一條第二項、第三項及ヒ第千五十二條ノ相續財産ノ管理又ハ保存ニ關スル事件ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第六十六條 民法第九百七十八條ノ遺産ノ管理ニ關スル事件ハ相續人ノ廢除又ハ其取消ノ請求ニ付キ第一審ニ於テ訴ヲ受ケタル裁判所ノ管轄トス

第六十七條 民法第千四十三條ノ相續財産ノ管理ニ關スル事件ハ財産分離ノ請求ニ付キ第一審ニ於テ訴ヲ受ケタル裁判所ノ管轄トス

第六十八條 第三十九條乃至第六十二條ノ規定ハ前五條ニ掲ケタル事件ニ之ヲ準用ス

第六十九條 民法第千五十二條第二項ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 申立人ノ氏名、住所
- 二 被相續人ノ氏名、身分、職業及ヒ最後ノ住所
- 三 被相續人ノ出生及ヒ死亡ノ場所並ニ其年月日
- 四 管理人ノ氏名、住所

第七十條 民法第千五十八條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 前條第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項
- 二 相續人ハ一定ノ期間内ニ其權利ヲ主張スヘキ旨ノ催告

第七十一條 民事訴訟法第七百六十六條ニ定メタル公告ノ方法ハ前二條ノ公告

非訟事件手續法 民事非訟事件 財産ノ管理ニ關 三百四十七  
スル事件

ニ之ヲ準用ス

第三章 裁判上ノ代位ニ關スル事件

第七十二條 債權者ハ自己ノ債權ノ期限前ニ債務者ノ權利ヲ行ハサレハ其債權ヲ保全スルコト能ハス又ハ之ヲ保全スルニ困難ヲ生スル虞アルトキハ裁判上ノ代位ヲ申請スルコトヲ得

第七十三條 裁判上ノ代位ハ債務者方普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄トス

第七十四條 代位ノ申請ニハ第九條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 債務者及ヒ第三債務者ノ氏名、住所

二 申請人ノ保全セントスル債權及ヒ其行ハントスル權利ノ表示

第七十五條 裁判所ハ申請ヲ理由アリト認ムルトキハ擔保ヲ供セシメ又ハ供セシメスシテ之ヲ許可スルコトヲ得

第七十六條 申請ヲ許可シタル裁判ハ職權ヲ以テ之ヲ債務者ニ告知スヘシ

前項ノ告知ヲ受ケタル債務者ハ其權利ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第七十七條 申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

申請ヲ許可シタル裁判ニ對シテハ債務者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ債務者方裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第七十八條 抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ニ付テハ

申請人及ヒ抗告人ヲ當事者ト看做シ民事訴訟法第七十二條第一項ノ規定ニ從ヒテ其負擔者ヲ定ム

第七十九條 第十三條及ヒ第十五條ノ規定ハ本章ノ手續ニ之ヲ適用セス

第四章 保存、供託、保管及ヒ鑑定ニ關スル事件

第八十條 民法第二百六十二條第三項ノ證書保存者ノ指定ハ共有物ノ分割アリタル地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前共有者ヲ訊問スヘシ

非訟事件手續法

民事非訟事件 裁判上ノ代位ニ關スル事件 保存、供託、保管及ヒ鑑定ニ關スル事件

裁判所カ第一項ノ指定ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ共有者ノ全員ノ負擔トス

第八十一條 民法第四百九十五條第二項ノ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ハ債務履行地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前債權者及ヒ辨濟者ヲ訊問スヘシ

裁判所カ第一項ノ指定及ヒ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ債權者ノ負擔トス

第八十二條 第四十條、民法第六百五十八條第一項、第六百五十九條乃至第六百六十一條及ヒ第六百六十四條ノ規定ハ前條ノ保管者ニ之ヲ準用ス但民法第六百六十條ノ通知ハ辨濟者ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第八十三條 第八十一條ノ規定ハ民法第四百九十七條ノ裁判所ノ許可ニ之ヲ準用ス

第八十三條ノ二 第八十一條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ民法第三百五十四條ニ

依リ質物ヲ以テ直チニ辨濟ニ充ツルコトヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

裁判所カ申請ヲ許可シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ債務者ノ負擔トス  
(二十二年法律第五十一號ヲ以テ本條追加)

第八十四條 民法第五百八十二條ノ鑑定人ノ選任、呼出及ヒ訊問ハ不動産所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所カ前項ノ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ買主ノ負擔トス  
呼出及ヒ訊問ノ費用亦同シ

第八十五條 民法第三十二條第二項、第三十四條及ヒ第三百三十二條第二項ノ鑑定人ノ選任、呼出及ヒ訊問ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第八十六條 民法第四十七條及ヒ第五十條ノ場合ニ於ケル鑑定人ノ選任、呼出及ヒ訊問ハ第六十七條ニ定メタル裁判所ノ管轄トス

第八十七條 民法第三十二條第二項、第三十四條、第四十七條及ヒ第五十條ノ場合ニ於ケル鑑定人ノ選任ニ關スル費用ハ相續財產ノ負擔トス

非訟事件手續法 民事非訟事件 保存、供託、保管 三百五十一  
及ヒ鑑定ニ關スル事件

第八十八條 第十五條ノ規定ハ本章ノ手續ニハ之ヲ適用セス

第八十九條 本章ノ規定ニ依リテ指定若クハ選任ヲ爲シ又ハ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五章 隱居、廢家、子ノ懲戒、家督相續人及ヒ親族會ニ關スル事件

第九十條 隱居ノ許可ハ隱居ヲ爲サントスル戸主ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

許可ノ申請ニハ法定ノ推定家督相續人ヲ表示シ又ハ家督相續人タルヘキコトヲ承認シタル者ヲ表示シ且其者ヲシテ署名、捺印セシムヘシ  
隱居ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第九十一條 廢家ノ許可ハ廢家セントスル戸主ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

利害關係人及ヒ檢事ハ前項ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第七十八條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第九十二條 子ノ懲戒ニ關スル事件ハ子ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

檢事ハ前項ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第七十八條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第九十三條 民法第九百七十八條ノ戸主權ノ行使ニ付キ必要ナル處分ハ第六十

六條ニ定メタル裁判所ノ管轄トス

第九十四條 家督相續人ノ選定ニ關スル許可ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ相續財産ノ負擔トス

第九十五條 親族及ヒ檢事ハ前條ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十二條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

非訟事件手續法

民事非訟事件 隱居、廢家、子ノ懲戒、家督相續人及ヒ親族會ニ關スル事件 三百五十三